

(様式第 10)

岡大病総第 118 号
平成 28 年 10 月 4 日

厚生労働大臣

殿

岡山大学病院
病院長 榎野 博

岡山大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 27 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

| | |
|-----|-------------------------------|
| 住 所 | 〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目 1 番 1 号 |
| 氏 名 | 国立大学法人岡山大学 |

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

| |
|--------|
| 岡山大学病院 |
|--------|

3 所在の場所

| | |
|----------------------------------|-----------------|
| 〒700-8558 岡山市北区鹿田町二丁目 5 番 1 号 | 電話(086)223-7151 |
|----------------------------------|-----------------|

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

| |
|---|
| ①医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜 |
| 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜 |

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

| | | | | | | | |
|----------------|--|---------|----|----|----|----|--|
| 内科 | <input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無 | | | | | | |
| 内科と組み合わせた診療科名等 | | | | | | | |
| 1 消化器内科 | 2 神経内科 | 3 循環器内科 | 4 | 5 | 6 | 7 | |
| 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | |
| 診療実績 | | | | | | | |

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

| | | | | | | |
|---------------|-----------|--------|----------|--------|----|-------|
| 外科 | (有) ・ 無 | | | | | |
| 外科と組み合わせた診療科名 | | | | | | |
| 1 消化管外科 | 2 肝・胆・膵外科 | 3 小児外科 | 4 心臓血管外科 | 5 形成外科 | 6 | |
| 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 14 |
| 診療実績 | | | | | | |

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

| | | | | | | |
|-----------|-------|--------|---------|--------|-----------|--------|
| ① 精神科 | ② 小児科 | ③ 整形外科 | ④ 脳神経外科 | ⑤ 皮膚科 | ⑥ 泌尿器科 | ⑦ 産婦人科 |
| 8 産科 | 9 婦人科 | ⑩ 眼科 | ⑪ 耳鼻咽喉科 | ⑫ 放射線科 | 13 放射線診断科 | |
| 14 放射線治療科 | ⑮ 麻酔科 | ⑯ 救急科 | | | | |

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

| | | | | | | |
|---------------|---------|----------|---|---|---|---|
| 歯科 | (有) ・ 無 | | | | | |
| 歯科と組み合わせた診療科名 | | | | | | |
| 1 矯正歯科 | 2 小児歯科 | 3 歯科口腔外科 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 歯科の診療体制 | | | | | | |

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

| | | | | | | |
|---------|---------|--------------|----|----|----|----|
| 1 小児神経科 | 2 病理診断科 | 3 リハビリテーション科 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | 13 | 14 |
| 15 | 16 | 17 | 18 | 19 | 20 | 21 |

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

| | | | | | |
|-----|-----|----|----|------|------|
| 精神 | 感染症 | 結核 | 療養 | 一般 | 合計 |
| 34床 | 2床 | －床 | －床 | 813床 | 849床 |

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成 年 月 日現在)

| 職 種 | 常 勤 | 非常勤 | 合 計 | 職 種 | 員 数 | 職 種 | 員 数 |
|-------|------|--------|--------|-----------|-----|-------------|------|
| 医 師 | 283人 | 282.6人 | 565.6人 | 看護補助者 | 50人 | 診療エックス線技師 | 0人 |
| 歯科医師 | 94人 | 89.8人 | 183.8人 | 理学療法士 | 26人 | 臨床検査技師 | 72人 |
| 薬 剤 師 | 74人 | 0人 | 74人 | 作業療法士 | 7人 | 衛生検査技師 | 0人 |
| 保 健 師 | 0人 | 0人 | 0人 | 視能訓練士 | 5人 | その他 | 0人 |
| 助 産 師 | 23人 | 0.7人 | 23.7人 | 義肢装具士 | 0人 | あん摩マッサージ指圧師 | 0人 |
| 看 護 師 | 984人 | 15.1人 | 999.1人 | 臨床工学士 | 22人 | 医療社会事業従事者 | 0人 |
| 准看護師 | 0人 | 0人 | 0人 | 栄 養 士 | 0人 | その他の技術員 | 21人 |
| 歯科衛生士 | 17人 | 0人 | 17人 | 歯 科 技 工 士 | 8人 | 事 務 職 員 | 394人 |
| 管理栄養士 | 8人 | 0人 | 8人 | 診療放射線技師 | 50人 | その他の職員 | 24人 |

(注) 1 報告書を提出する年度の10月1日現在の員数を記入すること。

2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。

3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従業者の通常勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下2位を切り捨て、小数点以下1位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成 28年 10月 1日現在)

| 専門医名 | 人 数 | 専門医名 | 人 数 |
|-------------|------|-------------|-------|
| 総合内科専門医 | 37 人 | 眼 科 専 門 医 | 14 人 |
| 外 科 専 門 医 | 52 人 | 耳鼻咽喉科専門医 | 13 人 |
| 精 神 科 専 門 医 | 13 人 | 放射線科専門医 | 12 人 |
| 小 児 科 専 門 医 | 34 人 | 脳神経外科専門医 | 10 人 |
| 皮 膚 科 専 門 医 | 7 人 | 整形外科専門医 | 29 人 |
| 泌尿器科専門医 | 13 人 | 麻 酔 科 専 門 医 | 29 人 |
| 産婦人科専門医 | 15 人 | 救 急 科 専 門 医 | 13 人 |
| | | 合 計 | 291 人 |

(注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従業者の通常勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下1位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (榎野 博史) 任命年月日 平成23年 4月 1日

| |
|--|
| |
|--|

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

| | 歯科等以外 | 歯科等 | 合計 |
|--------------|----------|---------|----------|
| 1日当たり平均入院患者数 | 649.9 人 | 21.2 人 | 671.1 人 |
| 1日当たり平均外来患者数 | 2014.6 人 | 679.3 人 | 2693.9 人 |
| 1日当たり平均調剤数 | | 1016.3 | 剤 |
| 必要医師数 | | 181.9 | 人 |
| 必要歯科医師数 | | 37 | 人 |
| 必要薬剤師数 | | 23 | 人 |
| 必要(准)看護師数 | | 427 | 人 |

- (注) 1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

| 施設名 | 床面積 | 主要構造 | 設 備 概 要 | | | |
|----------|--|----------|--|------|---------|-------------|
| | | | 病 床 数 | | 心 電 計 | |
| 集中治療室 | m ² 1,161.6 | 鉄筋コンクリート | 病床数 | 60 床 | 心電計 | ○・無 |
| | | | 人工呼吸装置 | ○・無 | 心細動除去装置 | ○・無 |
| | | | その他の救急蘇生装置 | ○・無 | ペースメーカー | ○・無 |
| 無菌病室等 | [固定式の場合] 床面積 234.5 m ² [移動式の場合] 台数 - 台 | | 病床数 | 25 床 | | |
| 医薬品情報管理室 | [専用室の場合] 床積 40.5 m ² [共用室の場合] 共用する室名 - | | | | | |
| 化学検査室 | m ² 275 | 鉄筋コンクリート | (主な設備) 生化学自動分析装置, 自動免疫測定装置 他 | | | |
| 細菌検査室 | m ² 120 | 鉄筋コンクリート | (主な設備) 微生物分類同定分析装置, 感受性測定装置, 孵卵器 他 | | | |
| 病理検査室 | m ² 197 | 鉄筋コンクリート | (主な設備) 自動包埋装置, 自動染色装置, 自動免疫染色装置, ミクロトーム 他 | | | |
| 病理解剖室 | m ² 111 | 鉄筋コンクリート | (主な設備) 解剖台, 大型電気ノコ 他 | | | |
| 研究室 | m ² 4,994 | 鉄筋コンクリート | (主な設備) ドラフトチャンバー, クリーンベンチ, 冷蔵庫, 冷凍庫, 中央実験台 他 | | | |
| 講義室 | m ² 1,281 | 鉄筋コンクリート | 室数 | 7 室 | 収容定員 | 947 人 |
| 図書室 | m ² 1,938 | 鉄筋コンクリート | 室数 | 11 室 | 蔵書数 | 244,100 冊程度 |

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

| 算定期間 | | 平成27年 4月 1日～平成28年 3月31日 | |
|------|-----------------------|-------------------------|--------|
| 紹介率 | 65.8 % | 逆紹介率 | 68.6 % |
| 算出根拠 | A：紹介患者の数 | 20,302 | 人 |
| | B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数 | 21,734 | 人 |
| | C：救急用自動車によって搬入された患者の数 | 539 | 人 |
| | D：初診の患者の数 | 31,697 | 人 |

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由 (注)

* 経過措置の適用により、医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画を提出済。

| 氏名 | 所属 | 委員長 (○を付す) | 選定理由 | 利害関係 | 委員の要件 該当状況 |
|----|----|---------------|------|------|---------------|
| | | | | 有・無 | |
| | | | | 有・無 | |
| | | | | 有・無 | |
| | | | | 有・無 | |
| | | | | 有・無 | |
| | | | | 有・無 | |

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者 (1. に掲げる者を除く。)
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

* 経過措置の適用により、医療に係る安全管理のための体制整備に関する画を提出済。

| | |
|---------------|---------------------------------------|
| 委員名簿の公表の有無 | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 |
| 委員の選定理由の公表の有無 | 有・ <input checked="" type="radio"/> 無 |
| 公表の方法 | |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

| 先進医療の種類 | 取扱患者数 |
|--------------------------------|-------|
| IL28B遺伝子診断によるインターフェロン治療効果の予測評価 | 0人 |
| 硬膜外内視鏡による難治性腰下肢痛の治療 | 0人 |
| LDLアフェレシス療法 | 0人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示 第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

| 先進医療の種類 | 取扱患者数 |
|-------------------------------|-------|
| ペムレキセド静脈内投与及びシスプラチン静脈内投与の併用療法 | 1人 |
| 経皮的乳がんラジオ波焼灼療法 | 7人 |
| 急性心筋梗塞に対するエポエチンベータ投与療法 | 0人 |
| オクトレオチド皮下注射療法 | 0人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |
| | 人 |

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

| | | | |
|---|---------|-------|-----|
| 医療技術名 | 生体部分肺移植 | 取扱患者数 | 3人 |
| 当該医療技術の概要 肺移植は末期肺疾患に対する有効な治療法である。健康な2人のドナーから肺の一部の提供を受け、レシピエントに移植する。1人目のドナーから右下葉を、2人目のドナーから左下葉を摘出し、それぞれをレシピエントの右肺、左肺として移植する術式である。 | | | |
| 医療技術名 | 死体肺移植 | 取扱患者数 | 14人 |
| 当該医療技術の概要 ドナーの片肺、または両肺を、移植を受ける方(レシピエント)の片方または両方の肺と入れ替える方法である。 | | | |
| 医療技術名 | 生体部分肝移植 | 取扱患者数 | 22人 |
| 当該医療技術の概要 肝移植は末期肝疾患並びに急性肝不全(劇症肝炎など)に対する有効な治療法であり、当院では豊富な経験をもとに良好な実績を積んでいる。 | | | |
| 医療技術名 | 死体肝移植 | 取扱患者数 | 3人 |
| 当該医療技術の概要 脳死のドナーから通常、肝臓全部を採取し、それをレシピエントに移植する方法である。 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |
| 医療技術名 | | 取扱患者数 | 人 |
| 当該医療技術の概要 | | | |

(注) 1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

(注) 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること(当該医療が先進医療の場合についても記入すること)。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

| | 疾 患 名 | 患者数 | | 疾 患 名 | 患者数 |
|----|----------------------------|-----|-----|----------------------|-----|
| 1 | 球脊髄性筋萎縮症 | 11 | 56 | ベーチェット病 | 93 |
| 2 | 筋萎縮性側索硬化症 | 43 | 57 | 特発性拡張型心筋症 | 165 |
| 3 | 脊髄性筋萎縮症 | 4 | 58 | 肥大型心筋症 | 23 |
| 4 | 原発性側索硬化症 | 0 | 59 | 拘束型心筋症 | 0 |
| 5 | 進行性核上性麻痺 | 17 | 60 | 再生不良性貧血 | 48 |
| 6 | パーキンソン病 | 281 | 61 | 自己免疫性溶血性貧血 | 0 |
| 7 | 大脳皮質基底核変性症 | 7 | 62 | 発作性夜間ヘモグロビン尿症 | 1 |
| 8 | ハンチントン病 | 5 | 63 | 特発性血小板減少性紫斑病 | 43 |
| 9 | 神経有棘赤血球症 | 0 | 64 | 血栓性血小板減少性紫斑病 | 1 |
| 10 | シャルコー・マリー・トゥース病 | 0 | 65 | 原発性免疫不全症候群 | 6 |
| 11 | 重症筋無力症 | 78 | 66 | IgA腎症 | 39 |
| 12 | 先天性筋無力症候群 | 0 | 67 | 多発性嚢胞腎 | 27 |
| 13 | 多発性硬化症/視神経脊髄炎 | 47 | 68 | 黄色靱帯骨化症 | 4 |
| 14 | 慢性炎症性脱髄性多発神経炎/多巣性運動ニューロパチー | 18 | 69 | 後縦靱帯骨化症 | 91 |
| 15 | 封入体筋炎 | 2 | 70 | 広範脊柱管狭窄症 | 21 |
| 16 | クロー・深瀬症候群 | 0 | 71 | 特発性大腿骨頭壊死症 | 92 |
| 17 | 多系統萎縮症 | 25 | 72 | 下垂体性ADH分泌異常症 | 12 |
| 18 | 脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。) | 63 | 73 | 下垂体性TSH分泌亢進症 | 2 |
| 19 | ライゾソーム病 | 4 | 74 | 下垂体性PRL分泌亢進症 | 21 |
| 20 | 副腎白質ジストロフィー | 1 | 75 | クッシング病 | 12 |
| 21 | ミトコンドリア病 | 9 | 76 | 下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症 | 3 |
| 22 | もやもや病 | 90 | 77 | 下垂体性成長ホルモン分泌亢進症 | 40 |
| 23 | プリオン病 | 0 | 78 | 下垂体前葉機能低下症 | 105 |
| 24 | 亜急性硬化性全脳炎 | 0 | 79 | 家族性高コレステロール血症(ホモ接合体) | 1 |
| 25 | 進行性多巣性白質脳症 | 0 | 80 | 甲状腺ホルモン不応症 | 0 |
| 26 | HTLV-1関連脊髄症 | 0 | 81 | 先天性副腎皮質酵素欠損症 | 2 |
| 27 | 特発性基底核石灰化症 | 0 | 82 | 先天性副腎低形成症 | 0 |
| 28 | 全身性アミロイドーシス | 8 | 83 | アジソン病 | 3 |
| 29 | ウルリッヒ病 | 0 | 84 | サルコイドーシス | 129 |
| 30 | 遠位型ミオパチー | 0 | 85 | 特発性間質性肺炎 | 2 |
| 31 | ベスレムミオパチー | 0 | 86 | 肺動脈性肺高血圧症 | 58 |
| 32 | 自己食空胞性ミオパチー | 0 | 87 | 肺静脈閉塞症/肺毛細血管腫症 | 1 |
| 33 | シュワルツ・ヤンペル症候群 | 0 | 88 | 慢性血栓塞栓性肺高血圧症 | 5 |
| 34 | 神経線維腫症 | 37 | 89 | リンパ脈管筋腫症 | 22 |
| 35 | 天疱瘡 | 21 | 90 | 網膜色素変性症 | 28 |
| 36 | 表皮水疱症 | 3 | 91 | バッド・キアリ症候群 | 7 |
| 37 | 膿疱性乾癬(汎発型) | 5 | 92 | 特発性門脈圧亢進症 | 0 |
| 38 | スティーヴンス・ジョンソン症候群 | 0 | 93 | 原発性胆汁性肝硬変 | 90 |
| 39 | 中毒性表皮壊死症 | 0 | 94 | 原発性硬化性胆管炎 | 8 |
| 40 | 高安動脈炎 | 27 | 95 | 自己免疫性肝炎 | 16 |
| 41 | 巨細胞性動脈炎 | 0 | 96 | クローン病 | 136 |
| 42 | 結節性多発動脈炎 | 14 | 97 | 潰瘍性大腸炎 | 358 |
| 43 | 顕微鏡的多発血管炎 | 46 | 98 | 好酸球性消化管疾患 | 3 |
| 44 | 多発血管炎性肉芽腫症 | 16 | 99 | 慢性特発性偽性腸閉塞症 | 0 |
| 45 | 好酸球性多発血管炎性肉芽腫症 | 8 | 100 | 巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症 | 0 |
| 46 | 悪性関節リウマチ | 15 | 101 | 腸管神経節細胞減少症 | 0 |
| 47 | パージャー病 | 11 | 102 | ルビンシュタイン・ティビ症候群 | 0 |
| 48 | 原発性抗リン脂質抗体症候群 | 1 | 103 | CFC症候群 | 0 |
| 49 | 全身性エリテマトーデス | 225 | 104 | コステロ症候群 | 0 |
| 50 | 皮膚筋炎/多発性筋炎 | 69 | 105 | チャージ症候群 | 0 |
| 51 | 全身性強皮症 | 85 | 106 | クリオピリン関連周期熱症候群 | 0 |
| 52 | 混合性結合組織病 | 27 | 107 | 全身型若年性特発性関節炎 | 0 |
| 53 | シェーグレン症候群 | 7 | 108 | TNF受容体関連周期性症候群 | 0 |
| 54 | 成人スチル病 | 5 | 109 | 非典型溶血性尿毒症症候群 | 0 |
| 55 | 再発性多発軟骨炎 | 2 | 110 | ブラウ症候群 | 0 |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

| 疾患名 | | | 疾患名 | 患者数 | |
|-----|--------------------------------|---|-----|--------------------|---|
| 111 | 先天性ミオパチー | 0 | 161 | 家族性良性慢性天疱瘡 | 0 |
| 112 | マリネスコ・シェーグレン症候群 | 0 | 162 | 類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。) | 1 |
| 113 | 筋ジストロフィー | 2 | 163 | 特発性後天性全身性無汗症 | 0 |
| 114 | 非ジストロフィー性ミオトニー症候群 | 0 | 164 | 眼皮膚白皮症 | 0 |
| 115 | 遺伝性周期性四肢麻痺 | 0 | 165 | 肥厚性皮膚骨膜炎 | 1 |
| 116 | アトピー性脊髄炎 | 0 | 166 | 弾性線維性仮性黄色腫 | 0 |
| 117 | 脊髄空洞症 | 2 | 167 | マルファン症候群 | 1 |
| 118 | 脊髄髄膜瘤 | 0 | 168 | エーラス・ダンロス症候群 | 0 |
| 119 | アイザックス症候群 | 0 | 169 | メンケス病 | 0 |
| 120 | 遺伝性ジストニア | 0 | 170 | オクシピタル・ホーン症候群 | 0 |
| 121 | 神経フェリチン症 | 0 | 171 | ウィルソン病 | 3 |
| 122 | 脳表ヘモジドリン沈着症 | 0 | 172 | 低ホスファターゼ症 | 0 |
| 123 | 禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症 | 0 | 173 | VATER症候群 | 0 |
| 124 | 皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症 | 0 | 174 | 那須・ハコラ病 | 0 |
| 125 | 神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症 | 0 | 175 | ウィーバー症候群 | 0 |
| 126 | ベリー症候群 | 0 | 176 | コフィン・ローリー症候群 | 0 |
| 127 | 前頭側頭葉変性症 | 0 | 177 | 有馬症候群 | 0 |
| 128 | ピッカースタッフ脳幹脳炎 | 0 | 178 | モワット・ウィルソン症候群 | 0 |
| 129 | 痙攣重積型(二相性)急性脳症 | 0 | 179 | ウィリアムズ症候群 | 0 |
| 130 | 先天性無痛無汗症 | 0 | 180 | ATR-X症候群 | 0 |
| 131 | アレキサンダー病 | 0 | 181 | クルーゾン症候群 | 0 |
| 132 | 先天性核上性球麻痺 | 0 | 182 | アペール症候群 | 0 |
| 133 | メビウス症候群 | 0 | 183 | ファイファー症候群 | 0 |
| 134 | 中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群 | 0 | 184 | アントレー・ピクスラー症候群 | 0 |
| 135 | アイカルディ症候群 | 0 | 185 | コフィン・シリス症候群 | 0 |
| 136 | 片側巨脳症 | 0 | 186 | ロスムンド・トムソン症候群 | 0 |
| 137 | 限局性皮質異形成 | 0 | 187 | 歌舞伎症候群 | 0 |
| 138 | 神経細胞移動異常症 | 1 | 188 | 多脾症候群 | 0 |
| 139 | 先天性大脳白質形成不全症 | 0 | 189 | 無脾症候群 | 1 |
| 140 | ドラベ症候群 | 0 | 190 | 鯉耳腎症候群 | 0 |
| 141 | 海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん | 0 | 191 | ウェルナー症候群 | 1 |
| 142 | ミオクロニー欠神てんかん | 0 | 192 | コケイン症候群 | 0 |
| 143 | ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん | 0 | 193 | ブラダー・ウィリ症候群 | 0 |
| 144 | レノックス・ガストー症候群 | 0 | 194 | ソトス症候群 | 0 |
| 145 | ウエスト症候群 | 0 | 195 | ヌーナン症候群 | 0 |
| 146 | 大田原症候群 | 0 | 196 | ヤング・シンブソン症候群 | 0 |
| 147 | 早期ミオクロニー脳症 | 0 | 197 | 1p36欠失症候群 | 0 |
| 148 | 遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん | 0 | 198 | 4p欠失症候群 | 0 |
| 149 | 片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群 | 0 | 199 | 5p欠失症候群 | 0 |
| 150 | 環状20番染色体症候群 | 0 | 200 | 第14番染色体父親性ダイソミー症候群 | 0 |
| 151 | ラスムッセン脳炎 | 0 | 201 | アンジェルマン症候群 | 0 |
| 152 | PCDH19関連症候群 | 0 | 202 | スミス・マギニス症候群 | 0 |
| 153 | 難治頻回部分発作重積型急性脳炎 | 0 | 203 | 22q11.2欠失症候群 | 0 |
| 154 | 徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症 | 0 | 204 | エマヌエル症候群 | 0 |
| 155 | ランドウ・クレフナー症候群 | 0 | 205 | 脆弱X症候群関連疾患 | 0 |
| 156 | レット症候群 | 0 | 206 | 脆弱X症候群 | 0 |
| 157 | スタージ・ウェーバー症候群 | 0 | 207 | 総動脈幹遺残症 | 0 |
| 158 | 結節性硬化症 | 3 | 208 | 修正大血管転位症 | 0 |
| 159 | 色素性乾皮症 | 0 | 209 | 完全大血管転位症 | 2 |
| 160 | 先天性魚鱗癬 | 0 | 210 | 単心室症 | 2 |

4 指定難病についての診療

| 疾患名 | | 疾患名 | | | |
|-----|------------------------------|-----|-----|----------------------------|----|
| 211 | 左心低形成症候群 | 1 | 259 | レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症 | 0 |
| 212 | 三尖弁閉鎖症 | 3 | 260 | シトステロール血症 | 0 |
| 213 | 心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症 | 0 | 261 | タンジール病 | 0 |
| 214 | 心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症 | 0 | 262 | 原発性高カイロミクロン血症 | 0 |
| 215 | ファロー四徴症 | 2 | 263 | 脳腫黄色腫症 | 0 |
| 216 | 両大血管右室起始症 | 1 | 264 | 無βリポタンパク血症 | 0 |
| 217 | エプスタイン病 | 0 | 265 | 脂肪萎縮症 | 0 |
| 218 | アルポート症候群 | 0 | 266 | 家族性地中海熱 | 0 |
| 219 | ギャロウェイ・モワト症候群 | 0 | 267 | 高IgD症候群 | 0 |
| 220 | 急速進行性糸球体腎炎 | 0 | 268 | 中條・西村症候群 | 0 |
| 221 | 抗糸球体基底膜腎炎 | 0 | 269 | 化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群 | 0 |
| 222 | 一次性ネフローゼ症候群 | 11 | 270 | 慢性再発性多発性骨髄炎 | 0 |
| 223 | 一次性膜性増殖性糸球体腎炎 | 0 | 271 | 強直性脊椎炎 | 4 |
| 224 | 紫斑病性腎炎 | 0 | 272 | 進行性骨化性線維異形成症 | 0 |
| 225 | 先天性腎性尿崩症 | 0 | 273 | 肋骨異常を伴う先天性側弯症 | 0 |
| 226 | 間質性膀胱炎(ハンナ型) | 1 | 274 | 骨形成不全症 | 0 |
| 227 | オスラー病 | 1 | 275 | タナトフォリック骨異形成症 | 0 |
| 228 | 閉塞性細気管支炎 | 1 | 276 | 軟骨無形成症 | 0 |
| 229 | 肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性) | 0 | 277 | リンパ管腫症/ゴーハム病 | 0 |
| 230 | 肺胞低換気症候群 | 0 | 278 | 巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変) | 0 |
| 231 | α1-アンチトリプシン欠乏症 | 0 | 279 | 巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変) | 1 |
| 232 | カーニー複合 | 0 | 280 | 巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変) | 0 |
| 233 | ウォルフラム症候群 | 0 | 281 | クリッペル・トレノニー・ウェーバー症候群 | 3 |
| 234 | ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。) | 0 | 282 | 先天性赤血球形成異常性貧血 | 0 |
| 235 | 副甲状腺機能低下症 | 1 | 283 | 後天性赤芽球癆 | 1 |
| 236 | 偽性副甲状腺機能低下症 | 0 | 284 | ダイヤモンド・ブラックファン貧血 | 0 |
| 237 | 副腎皮質刺激ホルモン不応症 | 0 | 285 | ファンconi貧血 | 0 |
| 238 | ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症 | 3 | 286 | 遺伝性鉄芽球性貧血 | 0 |
| 239 | ビタミンD依存性くる病/骨軟化症 | 0 | 287 | エプスタイン症候群 | 0 |
| 240 | フェニルケトン尿症 | 0 | 288 | 自己免疫性出血病XIII | 0 |
| 241 | 高チロシン血症1型 | 0 | 289 | クロンカイト・カナダ症候群 | 0 |
| 242 | 高チロシン血症2型 | 0 | 290 | 非特異性多発性小腸潰瘍症 | 0 |
| 243 | 高チロシン血症3型 | 0 | 291 | ヒルシユスプルング病(全結腸型又は小腸) | 0 |
| 244 | メーブルシロップ尿症 | 0 | 292 | 総排泄腔外反症 | 0 |
| 245 | プロピオン酸血症 | 0 | 293 | 総排泄腔遺残 | 0 |
| 246 | メチルマロン酸血症 | 0 | 294 | 先天性横隔膜ヘルニア | 0 |
| 247 | イソ吉草酸血症 | 0 | 295 | 乳幼児肝巨大血管腫 | 0 |
| 248 | グルコーストランスポーター1欠損症 | 0 | 296 | 胆道閉鎖症 | 1 |
| 249 | グルタル酸血症1型 | 0 | 297 | アラジール症候群 | 0 |
| 250 | グルタル酸血症2型 | 0 | 298 | 遺伝性膝炎 | 0 |
| 251 | 尿素サイクル異常症 | 0 | 299 | 嚢胞性線維症 | 0 |
| 252 | リジン尿性蛋白不耐症 | 0 | 300 | IgG4関連疾患 | 1 |
| 253 | 先天性葉酸吸収不全 | 0 | 301 | 黄斑ジストロフィー | 0 |
| 254 | ポルフィリン症 | 0 | 302 | レーベル遺伝性視神経症 | 0 |
| 255 | 複合カルボキシラーゼ欠損症 | 0 | 303 | アッシュヤー症候群 | 0 |
| 256 | 筋型糖原病 | 0 | 304 | 若年発症型両側性感音難聴 | 0 |
| 257 | 肝型糖原病 | 0 | 305 | 遅発性内リンパ水腫 | 0 |
| 258 | ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症 | 0 | 306 | 好酸球性副鼻腔炎 | 17 |

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

| 施設基準の種類 | 施設基準の種類 |
|------------------|-----------------|
| ・地域歯科診療支援病院歯科初診料 | ・ハイリスク妊婦管理加算 |
| ・歯科外来診療環境体制加算 | ・ハイリスク分娩管理加算 |
| ・歯科診療特別対応連携加算 | ・病棟薬剤業務実施加算1及び2 |
| ・特定機能病院入院基本料(一般) | ・データ提出加算 |
| ・特定機能病院入院基本料(精神) | ・退院支援加算2 |
| ・臨床研修病院入院診療加算 | ・精神疾患診療体制加算1及び2 |
| ・救急医療管理加算 | ・救命救急入院料1 |
| ・超急性期脳卒中加算 | ・救命救急入院料4 |
| ・妊産婦緊急搬送入院加算 | ・特定集中治療室管理料1 |
| ・診療録管理体制加算2 | ・特定集中治療室管理料3 |
| ・医師事務作業補助体制加算1 | ・新生児特定集中治療室管理料1 |
| ・急性期看護補助体制加算 | ・一類感染症患者入院医療管理料 |
| ・看護職員夜間配置加算 | ・小児入院医療管理料2 |
| ・療養環境加算 | |
| ・重症者等療養環境特別加算 | |
| ・無菌治療室管理加算1及び2 | |
| ・緩和ケア診療加算 | |
| ・精神科身体合併症管理加算 | |
| ・精神科リエゾンチーム加算 | |
| ・摂食障害入院医療管理加算 | |
| ・がん拠点病院加算 | |
| ・栄養サポートチーム加算 | |
| ・医療安全対策加算1 | |
| ・感染防止対策加算1 | |
| ・患者サポート体制充実加算 | |
| ・褥瘡ハイリスク患者ケア加算 | |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

| 施設基準の種類 | 施設基準の種類 |
|------------------------------|-------------------------|
| ・植込型除細動器移行期加算 | ・時間内歩行試験及びシャトルウォーキングテスト |
| ・高度難聴指導管理料 | ・胎児心エコー法 |
| ・糖尿病合併症管理料 | ・ヘッドアップティルト試験 |
| ・がん性疼痛緩和指導管理料 | ・人工臓臓検査 |
| ・がん患者指導管理料1、2及び3 | ・皮下連続式グルコース測定 |
| ・外来緩和ケア管理料 | ・長期継続頭蓋内脳波検査 |
| ・移植後患者指導管理料(臓器移植後)(造血幹細胞移植後) | ・脳波検査判断料 I |
| ・糖尿病透析予防指導管理料 | ・神経学的検査 |
| ・外来放射線照射診療料 | ・補聴器適合検査 |
| ・ニコチン依存症管理料 | ・ロービジョン検査判断料 |
| ・ハイリスク妊産婦共同管理料(I) | ・コンタクトレンズ検査料1 |
| ・がん治療連携計画策定料 | ・小児食物アレルギー負荷検査 |
| ・がん治療連携管理料 | ・内服・点滴誘発試験 |
| ・認知症専門診断管理料 | ・センチネルリンパ節生検(単独)(併用) |
| ・肝炎インターフェロン治療計画料 | ・画像診断管理加算1及び2 |
| ・薬剤管理指導料 | ・遠隔画像診断 |
| ・医療機器安全管理料1及び2 | ・CT撮影及びMRI撮影 |
| ・持続血糖測定器加算 | ・冠動脈CT撮影加算 |
| ・造血器腫瘍遺伝子検査 | ・心臓MRI撮影加算 |
| ・遺伝学的検査 | ・乳房MRI撮影加算 |
| ・HPV核酸検出、HPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定) | ・外傷全身CT加算 |
| ・検体検査管理加算(IV) | ・抗悪性腫瘍剤処方管理加算 |
| ・国際標準検査管理加算 | ・外来化学療法加算1 |
| ・遺伝カウンセリング加算 | ・無菌製剤処理料 |
| ・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算 | ・心大血管疾患リハビリテーション料(I) |
| ・植込型心電図検査 | ・脳血管疾患等リハビリテーション料(I) |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

| 施設基準の種類 | 施設基準の種類 |
|---|---|
| ・廃用症候群リハビリテーション料(Ⅰ) | ・肺悪性腫瘍手術(壁側・臓側胸膜全切除(横隔膜、心膜合併切除を伴うもの)に限る) |
| ・運動器リハビリテーション料(Ⅰ) | ・経皮的冠動脈形成術 |
| ・呼吸器リハビリテーション料(Ⅰ) | ・経皮的冠動脈形成術(特殊カテーテルによるもの) |
| ・がん患者リハビリテーション料 | ・経皮的冠動脈ステント留置術 |
| ・抗精神病特定薬剤治療指導管理料 | ・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術 |
| ・透析液水質確保加算2 | ・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術 |
| ・人工臓器療法 | ・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術 |
| ・一酸化窒素吸入療法 | ・植込型除細動器移植術及び植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去 |
| ・悪性黒色腫センチネルリンパ節加算 | ・両室ペーシング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペーシング機能付き植込型除細動器交換術 |
| ・組織拡張器による再建手術(乳房(再建手術)の場合に限る) | ・大動脈バルーンパンピング法(IABP法) |
| ・骨移植術(軟骨移植術を含む)(自家培養軟骨移植術に限る) | ・補助人工心臓 |
| ・脳腫瘍覚醒下マッピング加算 | ・同種心移植術 |
| ・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る) | ・経皮的動脈遮断術 |
| ・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む)及び脳刺激装置交換術 | ・ダメージコントロール手術 |
| ・脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術 | ・胆管悪性腫瘍手術(膵頭十二指腸切除及び肝切除(葉以上)を伴うものに限る) |
| ・網膜再建術 | ・体外衝撃波胆石破碎術 |
| ・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術 | ・腹腔鏡下肝切除術 |
| ・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術) | ・生体部分肝移植術 |
| ・内視鏡下甲状腺部分切除、腫瘍摘出術 | ・同種死体肝移植術 |
| ・内視鏡下バセドウ甲状腺全摘(亜全摘)術(両葉) | ・腹腔鏡下膵体尾部腫瘍切除術 |
| ・内視鏡下副甲状腺(上皮小体)腺腫過形成手術 | ・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術 |
| ・乳がんセンチネルリンパ節加算1、2 | ・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術 |
| ・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後) | ・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの) |
| ・乳腺悪性腫瘍手術(乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴わないもの)及び乳頭乳輪温存乳房切除術(腋窩郭清を伴うもの)) | ・腹腔鏡下腎悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの) |
| ・同種死体肺移植術 | ・同種死体腎移植術 |
| ・生体部分肺移植術 | ・生体腎移植術 |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

| 施設基準の種類 | 施設基準の種類 |
|--|--|
| ・膀胱水圧拡張術 | ・手術用顕微鏡加算 |
| ・腹腔鏡下膀胱悪性腫瘍手術 | ・歯根端切除手術の注3 |
| ・人工尿道括約筋植込・置換術 | ・歯周組織再生誘導手術 |
| ・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術 | ・手術時歯根面レーザー応用加算 |
| ・腹腔鏡下子宮悪性腫瘍手術(子宮体がんに限る) | ・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る)(歯科) |
| ・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む)に掲げる手術 | ・広範囲顎骨支持型装置埋入手術 |
| ・輸血管理料 I | ・クラウン・ブリッジ維持管理料 |
| ・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算 | ・う蝕歯無痛的窩洞形成加算 |
| ・腹腔鏡下前立腺悪性腫瘍手術(内視鏡手術用支援機器を用いるもの) | ・CAD/CAM冠 |
| ・麻酔管理料(I)及び(II) | ・歯科技工加算1及び2 |
| ・放射線治療専任加算 | ・歯科矯正診断料 |
| ・外来放射線治療加算 | ・顎口腔機能診断料 |
| ・高エネルギー放射線治療 | ・口腔病理診断管理加算1 |
| ・1回線量増加加算 | |
| ・強度変調放射線治療(IMRT) | |
| ・画像誘導放射線治療(IGRT) | |
| ・定位放射線治療 | |
| ・体外照射呼吸性移動対策加算 | |
| ・定位放射線治療呼吸性移動対策加算 | |
| ・テレパソロジーによる術中迅速病理組織標本作製 | |
| ・テレパソロジーによる術中迅速細胞診 | |
| ・病理診断管理加算2 | |
| ・歯科治療総合医療管理料(I)及び(II) | |
| ・有床義歯咀嚼機能検査 | |
| ・歯科画像診断管理加算1及び2 | |
| ・歯科口腔リハビリテーション料2 | |

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

| 施設基準等の種類 | 施設基準等の種類 |
|----------|----------|
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |
| ・ | ・ |

(注)1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。
 (注)2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

| | |
|-------------------------------------|---|
| 臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況 | ① 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 ② 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。 |
| 臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度 | 【病理診断部門】 ・剖検症例検討会 月1回程度 ・消化器内科+消化管外科とのカンファレンス 週1回程度 ・乳腺・内分泌外科とのカンファレンス 年4回程度 ・脳神経外科との脳腫瘍カンファレンス 月1回程度 ・産科婦人科との婦人科腫瘍カンファレンス 週1回程度 ・頭頸部がんカンサボード 週1回程度 ・消化器内科との肝・胆道系カンファレンス 月1回程度 ・皮膚病理カンファレンス 週1回程度 ・形成外科との血管奇形カンファレンス 年4回程度 【臨床検査部門】 ・総合内科との症例検討会 月1回程度 |
| 剖 検 の 状 況 | 剖検症例数 24 例 / 剖検率 13.9 % |

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

| 研究課題名 | 研究者氏名 | 所属部門 | 金額 | 補助元又は委託元 | |
|--|---------|------------------------|-------------|----------|-------------------|
| 初期臨床研修医の共感性 (Empathy) に関する量的および質的研究 | 小比賀 美香子 | 総合内科 | 千円 1,300 | 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 生殖内分泌H-P-0系を取り巻くモジュレータB | 大塚 文男 | 総合内科 | 1,400 | 委補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 網羅的なゲノム解析によるテーラーメイド腫瘍抗原の同定 | 近藤 英生 | 総合内科 | 1,000 | 委補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 一次繊毛機能を介したACAM/CLMPの脂肪細胞 | 村上 和敏 | 総合内科 | 1,300 | 委補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 生殖内分泌調節におけるGH/IGF-I系の役割とBMPの関与 | 中村 絵里 | 総合内科 | 1,600 | 委補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 肺気腫におけるRAGEの役割の検討 | 早稲田 公一 | 総合内科 | 700 | 委補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 網羅的なゲノム解析によるテーラーメイド腫瘍抗原の同定 | 近藤 英生 | 総合内科 | 1,000 | 委補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 消化器癌における新規癌関連遺伝子REICの機能解析と臨床応用に関する研究 | 加藤 博也 | 消化器内科 | 1,360 | 委補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 膵がん及び間葉系幹細胞、膵がん特異的タンパク質を標的とした膵がん早期診断法の開発 | 堤 康一郎 | 消化器内科 | 1,820 | 委補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| カルシニューリン阻害薬によるTreg疲弊を救済する低用量IL-2療法の開発 | 谷本 光音 | 血液・腫瘍内科 | 1,300 | 委補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| Alternative Th17細胞を標的とした慢性移植片対宿主病治療の開発 | 前田 嘉信 | 血液・腫瘍内科 | 1,300 | 委補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| インターロイキン2と抗PD-L1抗体の併用によるGVHD/GVL分離法の開発 | 松岡 賢市 | 血液・腫瘍内科 | 1,200 | 委補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| インターロイキン2の免疫抑制作用を活用する新しい免疫制御療法の開発 | 松岡 賢市 | 血液・腫瘍内科 | 22,254 | 委補 | 日本医療研究開発機構委託研究開発費 |
| 気道炎症における核内受容体RXR選択的パーシャルアゴニストの効果と作用機序の解明 | 金廣 有彦 | 血液・腫瘍内科 呼吸器・アレルギー内科 | 800 | 委補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| エラスターゼ誘導気道炎症および肺気腫進展におけるIL-23の役割の解明 | 宮原 信明 | 血液・腫瘍内科 呼吸器・アレルギー内科 | 1,100 | 委補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 治癒を目指すための肺癌幹細胞を利用した次世代肺癌マウスモデルの基礎的臨床的検討 | 木浦 勝行 | 呼吸器・アレルギー内科 | 1,620 | 委補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| EGFR-TKIsと抗EGFR抗体の併用療法に対するベバシズマブによる修飾効果 | 大橋 圭明 | 呼吸器・アレルギー内科 | 1,200 | 委補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| Vaspinとその相互作用分子から展開するメタボリック症候群関連創薬 | 和田 淳 | 腎臓・糖尿病・内分泌内科 | 5,330 | 委補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 脂肪組織と骨格筋を制御する膜蛋白同定とメタボリック症候群における病態生理学的意義 | 江口 潤 | 腎臓・糖尿病・内分泌内科 | 1,950 | 委補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| ポドサイト濾過フィルターの分子構造と機能調節の分子メカニズム | 小川 大輔 | 腎臓・糖尿病・内分泌内科 | 1,560 | 委補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 心腎連関におけるFGF21とインスリン抵抗性を介する動脈硬化進展機序の解明 | 北川 正史 | 腎臓・糖尿病・内分泌内科 | 910 | 委補 | 文部科学省科学研究費補助金 |

| | | | | | |
|---|-------|-------|--------|--------|-------------------|
| 遠隔虚血プレコンディショニングを用いた造影剤腎症への総合的治療法の開発 | 伊藤 浩 | 循環器内科 | 1,500 | 補 委 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 加算微分心電図を用いた分裂性QRSとJ波の定量化による心臓突然死リスクの予測法 | 森田 宏 | 循環器内科 | 1,500 | 補 委 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| RAGEシグナル抑制による肺高血圧症治療法の新規開発 | 中村一文 | 循環器内科 | 1,700 | 補 委 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 腹部大動脈瘤の形成・進展におけるインテグリンの関与とその治療に向けた基盤構築 | 三好 亨 | 循環器内科 | 1,480 | 補 委 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| HCN4過剰発現多能性幹細胞由来心筋細胞によるペースメーカー再生 | 斎藤 幸弘 | 循環器内科 | 1,400 | 補 委 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 筋萎縮性側索硬化症の分子病態解明と新たな治療法開発研究 | 阿部 康二 | 神経内科 | 4,200 | 補 委 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 酸化ストレス応答を応用した新規in vivo分子イメージング法の確立 | 阿部 康二 | 神経内科 | 1,300 | 補 委 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 認知記憶の脳機能ネットワークの解明と認知症の早期臨床診断システムの創造 | 阿部 康二 | 神経内科 | 600 | 補 委 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 認知症早期診断の海外調査と標準化技術の研究開発および臨床実験による国際基準の提案 | 阿部 康二 | 神経内科 | 200 | 補 委 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| ダイレクトプログラミング法を用いた新規脳梗塞治療法の開発 | 山下 徹 | 神経内科 | 2,000 | 補 委 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 難病患者への支援体制に関する研究 | 阿部 康二 | 神経内科 | 1,000 | 補 委 | 厚生労働科学研究費補助金 |
| 神経変性疾患領域における基盤的調査研究班 | 阿部 康二 | 神経内科 | 400 | 補 委 | 厚生労働科学研究費補助金 |
| スモンに関する調査研究班 | 阿部 康二 | 神経内科 | 800 | 補 委 | 厚生労働科学研究費補助金 |
| 運動失調症の病態解明と治療法開発に関する研究班 | 阿部 康二 | 神経内科 | 800 | 補 委 | 日本医療研究開発機構委託研究開発費 |
| プリオン病のサーベイランスと感染予防に関する調査研究班 | 阿部 康二 | 神経内科 | 1,000 | 補 委 | 厚生労働科学研究費補助金 |
| 時間軸を念頭に適切な医療・ケアを目指した、認知症の人等の全国的な情報登録・連携システムに関する研究 | 阿部 康二 | 神経内科 | 2,800 | 補 委 | 日本医療研究開発機構委託研究開発費 |
| 多系統萎縮症の治療法開発研究 | 阿部 康二 | 神経内科 | 600 | 補 委 | 日本医療研究開発機構委託研究開発費 |
| 筋萎縮性側索硬化症(ALS)新規治療法開発をめざした病態解明 | 阿部 康二 | 神経内科 | 1,100 | 補 委 | 日本医療研究開発機構委託研究開発費 |
| 難治性固形癌に対する腫瘍選択的融解ウイルスTelomelysinを用いた放射線併用ウイルス療法の臨床研究 | 藤原 俊義 | 消化管外科 | 58,500 | 補 委 | 日本医療研究開発機構委託研究開発費 |
| 蛍光ウイルス試薬を用いた進行胃癌患者の腹腔内浮遊がん細胞の生物学的悪性度評価に基づく早期再発症例の診断技術の開発 | 藤原 俊義 | 消化管外科 | 21,344 | 補 委 | 日本医療研究開発機構委託研究開発費 |
| グレリン投与による高齢者食道癌手術の安全性向上に関するランダム化第2相試験 | 白川 靖博 | 消化管外科 | 900 | 補 委 | 日本医療研究開発機構委託研究開発費 |
| 患者のQOL向上をめざした胃がんに対する低侵襲標準治療確立に関する多施設共同研究 | 西崎 正彦 | 消化管外科 | 400 | 補 委 | 日本医療研究開発機構委託研究開発費 |
| 全国がん登録と連携した臓器がん登録による大規模コホート研究の推進及び高質診療データベースの為にNCD長期予後入力システムの構築に関する研究 | 藤原 俊義 | 消化管外科 | 150 | 補 委 | 厚生労働科学研究費補助金 |

| | | | | | |
|---|-------|---------|-------|--------|--------------------|
| 消化器癌に対する細胞内侵入活性を有する免疫細胞をキャリアとするウイルス療法の開発 | 藤原 俊義 | 消化管外科 | 2,600 | 補 委 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 転移メカニズムにおける循環血液中がん微小環境の解明と新規癌治療法の開発 | 白川 靖博 | 消化管外科 | 780 | 補 委 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 炎症性微小環境に起因する胃癌の悪性化進展機構の解明と抗悪性化療法の開発 | 西崎 正彦 | 消化管外科 | 1,430 | 補 委 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 消化器癌に対する分子標的免疫治療 Photoimmunotherapy | 田邊 俊介 | 消化管外科 | 1,300 | 補 委 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| MicroRNAを用いた新規大腸癌治療戦略の開発 | 母里 淑子 | 消化管外科 | 1,430 | 補 委 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| マイクロピーズ技術を用いた肺がん検診ツールのイノベーションと臨床応用 | 永坂 岳司 | 消化管外科 | 8,580 | 補 委 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| DAMP複合体をターゲットとした外科侵襲時の新たな臓器障害制御システムの開発 | 篠浦 先 | 肝・胆・膵外科 | 520 | 補 委 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 新規薬物療法の開発を含めた進行再発大腸癌の治療戦略構築 | 楳田 祐三 | 肝・胆・膵外科 | 780 | 補 委 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| アンドロゲン分泌性幹細胞の創出とその応用基盤の確立 | 杉本 盛人 | 泌尿器科 | 750 | 補 委 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 尿路平滑筋幹細胞の創出と尿道括約筋再生のための基盤的研究 | 渡辺 豊彦 | 泌尿器科 | 1,000 | 補 委 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| REIC/Dkk-3遺伝子治療における抗癌免疫活性化作用の基盤解析 | 有吉 勇一 | 泌尿器科 | 800 | 補 委 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 前立腺癌抗原提示能を確立させる樹状細胞内分子機構の解明と創薬への展開 | 那須 保友 | 泌尿器科 | 4,000 | 補 委 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 癌増悪因子：CD147 Emmprinを標的とした新規の抗癌免疫療法の基盤の確立 | 小林 泰之 | 泌尿器科 | 900 | 補 委 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 腎組織幹細胞における病的ストレス制御機構の解明 | 荒木 元朗 | 泌尿器科 | 600 | 補 委 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 腫瘍融解性Ad-REICを用いた新規癌ワクチン療法の開発 | 黄 鵬 | 泌尿器科 | 1,500 | 補 委 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 播種性癌細胞を検出・分離する新技術の開発とその応用基盤の確立 | 植木 英雄 | 泌尿器科 | 1,200 | 補 委 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| エクスプラント心由来の自己幹細胞移植による拒絶緩和と膜組織作成法の開発 | 新井 禎彦 | 心臓血管外科 | 1,300 | 補 委 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| Diamond-like-carbonコーティングを用いた透析用人工血管の開発 | 藤井 泰宏 | 心臓血管外科 | 2,300 | 補 委 | 日本透析医会研究助成事業 |
| Diamond-like-carbonを利用した、高生体適合性腸骨動脈用カバードステントの新規開発 | 藤井 泰宏 | 心臓血管外科 | 1,800 | 補 委 | 岡山県特別電源所在県科学技術振興事業 |
| 超軟質精密心臓レプリカの作成による心臓外科手術トレーニングと個別化医療の確立に向けた研究 | 佐野 俊二 | 心臓血管外科 | 300 | 補 委 | 日本医療研究開発機構委託研究開発費 |
| 個別化・予防医療を支援する統合計算生命 | 佐野 俊二 | 心臓血管外科 | 1,500 | 補 委 | 文部科学省科学技術試験研究委託費 |
| Ex-vivo Heart Perfusionを用いた心臓移植の臨床応用 | 小谷 恭弘 | 心臓血管外科 | 1,300 | 補 委 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 小腸不全症の治療法—小腸化大腸の効率的作製のための研究 | 野田 卓男 | 小児外科 | 1,170 | 補 委 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 新規 p53発現腫瘍融解アデノウイルスがもたらす化学療法・放射線療法ブースト効果 | 尾崎 敏文 | 整形外科 | 3,300 | 補 委 | 文部科学省科学研究費補助金 |

| | | | | | |
|---|--------|------|-------|------------------|-------------------|
| インフェクションコントロール能を有した短期置換型骨補填剤の創成と実用化への展開 | 田中 雅人 | 整形外科 | 2,800 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 整形外科インプラントのMRI発熱予測システムの開発 | 野田 知之 | 整形外科 | 2,500 | 委 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 悪性骨軟部腫瘍患者への腫瘍融解アデノウイルス「テロメライシン」の臨床応用 | 國定 俊之 | 整形外科 | 1,000 | 委 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 進化分子工学と先端接着技術による脆弱性骨折の予防・治療 | 杉本 佳久 | 整形外科 | 1,500 | 委 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 表面コーティングによる人工関節の感染防御と骨再生促進 | 香川 洋平 | 整形外科 | 1,300 | 委 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 非接触三次元計測装置を用いた関節可動域自動計測装置の開発 | 中原 龍一 | 整形外科 | 300 | 委 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 腫瘍融解ウイルス治療と放射線治療の併用による骨軟部肉腫に対する新規治療法の開発 | 杉生 和久 | 整形外科 | 900 | 委 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| マウスリンパ浮腫モデルに対する培養リンパ管内皮細胞移植の有用性に関する研究 | 木股 敬裕 | 形成外科 | 1,300 | 委 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| MDCTを用いた間質リンパ管造影による四肢リンパ管のイメージング | 山田 潔 | 形成外科 | 1,170 | 委 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| コラーゲン結合型VEGF-Cによる効果的なリンパ管新生の研究 | 松本 洋 | 形成外科 | 1,170 | 委 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| In vivoイメージングを用いたリンパ輸送機能定量的評価法の確立 | 杉山 成史 | 形成外科 | 2,470 | 委 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 骨内微小環境の再現を基盤とした新規頭蓋骨組織再建法の確立 | 渡邊 敏之 | 形成外科 | 1,680 | 委 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| ラットを用いたリンパ管静脈吻合動物モデルの作成 | 小野田 聡 | 形成外科 | 1,820 | 委 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| ICGを用いた蛍光リンパ管造影法によるリンパ浮腫の標準的機能評価法の確立 | 松本 久美子 | 形成外科 | 650 | 委 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 新しい自己集合性ペプチドハイドロゲルの腱癒着防止材としての有用性の研究 | 向井 裕子 | 形成外科 | 910 | 委 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| EBウイルス関連リンパ球増殖性皮膚疾患の病態と予後に関わる分子・細胞マーカー解析 | 岩月 啓氏 | 皮膚科 | 1,500 | 委 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 慢性活動性EBウイルス感染症とその類縁疾患に対する革新的治療薬を実現するための統合的研究体制の構築 | 岩月 啓氏 | 皮膚科 | 1,900 | 委 補 委 補 | 日本医療研究開発機構委託研究開発費 |
| 慢性活動性EBウイルス感染症とその類縁疾患の診断・治療効果評価の向上を目指したEBウイルスDNA量のエビデンスの構築 | 岩月 啓氏 | 皮膚科 | 770 | 委 補 委 補 | 日本医療研究開発機構委託研究開発費 |
| 慢性活動性EBウイルス感染症とその類縁疾患の診療ガイドライン作成と患者レジスタリの構築 | 岩月 啓氏 | 皮膚科 | 900 | 委 補 委 補 | 厚生労働科学研究費補助金 |
| 稀少難治性皮膚疾患に関する調査研究 | 岩月 啓氏 | 皮膚科 | 900 | 委 補 委 補 | 厚生労働科学研究費補助金 |
| 全国がん登録と連携した臓器がん登録による大規模コホート研究の推進及び高質診療データベースの為にNCD長期予後入力システムの構築に関する研究 | 岩月 啓氏 | 皮膚科 | 150 | 委 補 委 補 | 厚生労働科学研究費補助金 |
| 進行期メラノーマの新規治療シンポジウム | 岩月 啓氏 | 皮膚科 | 363 | 委 補 委 補 | 公益財団法人日本対がん協会 |
| 表皮角化細胞産生セリンプロテアーゼ阻害因子の発現制御機構の解析 | 森実 真 | 皮膚科 | 1,000 | 委 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |

| | | | | | |
|---|--------|--------|-------|-------------|-----------------------|
| RAGEを標的とした加齢黄斑変性の新規治療法の開発 | 白神 史雄 | 眼科 | 1,200 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 外眼筋の固有感覚の生理学的包括的研究 | 濱崎 一郎 | 眼科 | 400 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 網膜におけるキサントフィルの新機能探求と代謝調節機構の解明 | 森實 祐基 | 眼科 | 1,300 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 難治性黄斑円孔の閉鎖過程におけるミューラー細胞の役割：新たな治療法の開発を目指して | 塩出 雄亮 | 眼科 | 1,000 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| AMPキナーゼを標的とした未熟児網膜症の新治療戦略 | 細川 海音 | 眼科 | 1,000 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| ナットウキナーゼによるランダム化プラセボ対照二重盲検試験、MUC-1による好酸球性副鼻腔炎の制御機構の解析 | 岡野 光博 | 耳鼻咽喉科 | 650 | 補 委 補 | 日本医療研究開発機構委託研究開発費 |
| NSAIDs不耐症鼻茸培養細胞のエイコサノイド産生異常と持続ウイルス感染実験 | 岡野 光博 | 耳鼻咽喉科 | 1,950 | 補 委 補 | 日本医療研究開発機構委託研究開発費 |
| 乳幼児の疾患疫学を踏まえたスクリーニング等の効果的実施に関する研究 | 西崎 正彦 | 耳鼻咽喉科 | 1,300 | 補 委 補 | 日本医療研究開発機構委託研究開発費 |
| 難治性聴覚障害に関する調査研究 | 西崎 和則 | 耳鼻咽喉科 | 600 | 補 委 補 | 厚生労働科学研究費補助金 |
| 中枢神経系疾患に対する細胞移植の臨床応用の扉を開く：カプセル化と電気刺激を用いて | 伊達 勲 | 脳神経外科 | 4,400 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| Bevacizumab誘導性脳腫瘍浸潤に対する新規治療法の開発 | 伊達 勲 | 脳神経外科 | 1,000 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 悪性グリオーマにおける血管新生-浸潤シフトの分子生物学的機構の解明 | 市川 智継 | 脳神経外科 | 1,400 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 新規OVと分子標的薬の併用療法 | 黒住 和彦 | 脳神経外科 | 1,200 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 電気刺激は移植細胞の遊走能を高めるか？：メカニズムに迫り、臨床応用への道を探る | 安原 隆雄 | 脳神経外科 | 800 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 脳動脈瘤破裂くも膜下出血後急性期における拡張性抑制の影響に関する検討 | 菱川 朋人 | 脳神経外科 | 1,200 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 脳深部刺激療法（DBS）でうつ病は治るのか？ | 亀田 雅博 | 脳神経外科 | 900 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 特発性正常圧水頭症の病因、診断と治療に関する研究 | 伊達 勲 | 脳神経外科 | 300 | 補 委 補 | 厚生労働科学研究費補助金 |
| 造影剤の経静脈投与によるcone-beam CT撮影の有用性に関する検討 | 菱川 朋人 | 脳神経外科 | 500 | 補 委 補 | 特定非営利活動法人日本脳神経血管内治療学会 |
| 新規腫瘍溶解ウイルスの開発 | 黒住 和彦 | 脳神経外科 | 1,750 | 補 委 補 | 日本医療研究開発機構補助金 |
| 標準治療抵抗性神経膠芽腫に対するペプチドワクチンの第III相臨床研究 | 伊達 勲 | 脳神経外科 | 1,000 | 補 委 補 | 日本医療研究開発機構委託研究開発費 |
| 三次元プリンターで難治性疼痛肢を再現したロボットアーム鏡治療の鎮痛効果の検証 | 佐藤 健治 | 麻酔科蘇生科 | 1,040 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 横紋筋融解症後腎傷害におけるヘムオキシゲナーゼ1とオートファジーの役割 | 清水 裕子 | 麻酔科蘇生科 | 1,690 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 遺伝子多型ベースメーカーチャンネルによる細胞内伝達抑制を用いた慢性痛遺伝子治療 | 賀来 隆治 | 麻酔科蘇生科 | 1,040 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| MEK1阻害薬のくも膜下出血後脳血管攣縮および認知機能障害に対する治療効果の検証 | 佐々木 俊弘 | 麻酔科蘇生科 | 1,170 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |

| | | | | | |
|--|--------|---------|--------|--------|-----------------------|
| 小児危急・難治疾患の生体応答解析と治療的介入 | 塚原 宏一 | 小児科 | 900 | 補 委 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 小児摂食障害におけるアウトカム尺度の開発に関する研究 - 学校保健における思春期やせの早期発見システムの構築、および発症要因と予後因子の抽出にむけて - | 岡田 あゆみ | 小児科 | 200 | 補 委 | 厚生労働科学研究費補助金 |
| 小児骨髄異形成症候群 (RAEB, RAEBT) の分子病態解析 | 嶋田 明 | 小児科 | 900 | 補 委 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 小児白血病におけるバイオマーカーによる早期診断技術の確立と実用化に関する研究 | 嶋田 明 | 小児科 | 2,490 | 補 委 | 日本医療研究開発機構委託研究開発費 |
| 小児とAYA世代の増殖性血液疾患の診断精度向上と診療ガイドラインの改定のための研究 | 嶋田 明 | 小児科 | 1,500 | 補 委 | 日本医療研究開発機構委託研究開発費 |
| 小児急性骨髄性白血病 (AML) における新規予後因子・再発マーカーの探索 | 嶋田 明 | 小児科 | 2,000 | 補 委 | 日本医療研究開発機構委託研究開発費 |
| 多中心性手根骨足根骨溶解症における「骨溶解」の病態解明 | 長谷川 高誠 | 小児科 | 1,500 | 補 委 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 診療ガイドライン策定を目指した骨系統疾患の診療ネットワークの構築 | 長谷川 高誠 | 小児科 | 400 | 補 委 | 日本医療研究開発機構委託研究開発費 |
| 小児重症インフルエンザ (肺炎・脳症) におけるレドックス制御蛋白の役割の解明 | 八代 将登 | 小児科 | 500 | 補 委 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 血管内皮細胞におけるインフルエンザ重症化宿主因子の検討 | 八代 将登 | 小児科 | 100 | 補 委 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 早産児晩期循環不全発症児におけるNO代謝産物の検討 | 鷲尾 洋介 | 小児科 | 400 | 補 委 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 小児期のウイルス性肝炎の病態解明や科学的根拠の集積等に関する研究 | 藤井 洋輔 | 小児科 | 400 | 補 委 | 日本医療研究開発機構補助金 |
| 重症インフルエンザ肺炎における抗HMGB-1抗体の治療効果の検討 | 野坂 宜之 | 小児科 | 1,400 | 補 委 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 肺動脈狭窄に対するCheatham Platinum (CP) ステント留置の有効性と安全性に関する研究 | 大月 審一 | 小児循環器科 | 615 | 補 委 | 公益社団法人日本医師会臨床研究・治験推進事 |
| ヒト脳発振現象の直接記録 | 小林 勝弘 | 小児神経科 | 7,400 | 補 委 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| CT透視下針穿刺用ロボットの開発：術者被曝のない手技へ | 平木 隆夫 | 放射線科 | 1,690 | 補 委 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 有痛性骨転移に対する温度センサー併用下経皮的凍結治療の第I/II相臨床試験 | 生口 俊浩 | 放射線科 | 1,820 | 補 委 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 血管奇形に対する冷凍療法についての第I/II相臨床試験 | 藤原 寛康 | 放射線科 | 1,040 | 補 委 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| CT透視下穿刺用医療ロボットの開発 - ロボティックIVRの時代へ - | 平木 隆夫 | 放射線科 | 17,693 | 補 委 | 日本医療研究開発機構委託研究開発費 |
| 新型成人用HF0人工呼吸器の開発及びARDS患者向けHF0呼吸管理プロトコルの開発 | 湯本 哲也 | 救急科 | 1,568 | 補 委 | 公益財団法人埼玉県産業振興公社 |
| PARP阻害剤併用による小細胞肺癌薬剤耐性の克服 | 南 大輔 | 緩和支援医療科 | 2,000 | 補 委 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 歯質表面損失症候群の診断と接着技法を応用した治療法の開発 | 吉山 昌宏 | むし歯科 | 1,500 | 補 委 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| インテグリンの活性制御による歯周組織幹細胞の遊走促進：分子リガンド創薬への展開 | 山本 直史 | 歯周科 | 1,300 | 補 委 | 文部科学省科学研究費補助金 |

| | | | | | |
|---|--------|-------------|-------|-------------|--------------------|
| 根尖性歯周炎に対するIL-1 α /ラミニンを用いた新規治療法の開発 | 大森 一弘 | 歯周科 | 1,100 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| TGF- β とナノDDS技術を応用した次世代の歯周組織再生療法の開発 | 下江 正幸 | 歯周科 | 1,100 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| カベオリン-1を標的とした結合組織における炎症の抑制制御 | 富川 知子 | 歯周科 | 1,100 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 上皮細胞の接着分子発現解析による侵襲性歯周炎の病態解明 | 本郷 昌一 | 歯周科 | 1,800 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 口腔バイオフィーム付着抑制性の口腔含嗽剤の開発(橋渡し研究加速ネットワークプログラム, シーズA18) | 高柴 正悟 | 歯周科 | 2,500 | 補 委 補 | 日本医療研究開発機構補助金 |
| マッシュルーム由来レクチンを応用した新規機能性食品 | 高柴 正悟 | 歯周科 | 2,294 | 補 委 補 | 岡山県特別電源所在県科学技術振興事業 |
| 歯胚発生プログラムの解明・応用に基づく歯の再生技術の開発 | 窪木 拓男 | クラウンブリッジ補綴科 | 6,400 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| ステムセルエイジングの制御に向けたアミノ酸による間葉系幹細胞未分化性維持 | 窪木 拓男 | クラウンブリッジ補綴科 | 2,800 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 次世代歯周軟組織再生療法としての角化上皮粘膜誘導制御 | 前川 賢治 | クラウンブリッジ補綴科 | 4,400 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 高頻度睡眠時ブラキシズム患者は、睡眠時高血圧による心臓血管系リスクを有するか | 水口 一 | クラウンブリッジ補綴科 | 700 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| ホスト幹細胞集積による新規組織再生療法の開発 | 秋山 謙太郎 | クラウンブリッジ補綴科 | 3,200 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 難治性神経疾患の新規治療法開発-歯髄由来幹細胞の新たな生物学的機能 | 秋山 謙太郎 | クラウンブリッジ補綴科 | 1,600 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| BMP-2の環境選択的な骨誘導/抑制メカニズムの解明および適応症の探索 | 縄稚 久美子 | クラウンブリッジ補綴科 | 1,500 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 再生器官の発生時間軸を制御するマスター遺伝子の探索 | 大島 正充 | クラウンブリッジ補綴科 | 1,700 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| インプラント周囲炎の生物学的病態解明と予防的診断プロトコルの開発 | 三野 卓哉 | クラウンブリッジ補綴科 | 900 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| フルオシノロンアセトニド(FA)を用いた変形性関節症の予防・治療法の開発 | 笈田 育尚 | クラウンブリッジ補綴科 | 1,800 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 歯胚発生におけるHox遺伝子の発現パターンと機能解析 | 新川 重彦 | クラウンブリッジ補綴科 | 1,800 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 日間変動に着目した睡眠時ブラキシズム発症とセロトニン神経活動 | 三木 春奈 | クラウンブリッジ補綴科 | 1,000 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 非咀嚼時の昼夜咀嚼筋活動は歯の喪失と歯周病に関与するか | 皆木省吾 | 咬合・義歯補綴科 | 1,430 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 信号検出理論による歯根膜感覚の内的感覚決定プロセスに関する研究 | 沖 和広 | 咬合・義歯補綴科 | 650 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 微弱かつ持続的な筋活動がインプラント治療患者に及ぼす影響についての検討 | 川上 滋央 | 咬合・義歯補綴科 | 1,560 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 日常生活の嚥下事象を自動識別する新たな計測システムの開発 | 前田 直人 | 咬合・義歯補綴科 | 1,430 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 機械的刺激による顎堤吸収に関する研究-補綴学的な顎堤保全を目指して- | 荒木 大介 | 咬合・義歯補綴科 | 1,560 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 皮膚の動きに追従するエビテーゼ用樹脂の開発 | 西川 悟郎 | 咬合・義歯補綴科 | 1,690 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |

| | | | | | |
|--|---------|--------------|--------|-------------|-------------------|
| セラミックスに対する新しい接着システムに関する研究 | 丸尾 幸憲 | 咬合・義歯補綴科 | 2,080 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| EphA4の未知なるリガンドの解明と臨床応用への可能性の追及 | 伊志嶺 知沙 | 咬合・義歯補綴科 | 910 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 補綴装置装着による咬合支持の回復が認知機能を含む高次脳機能に与える影響について | 坂本 準一 | 咬合・義歯補綴科 | 1,430 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 癌骨破壊病変の癌関連線維芽細胞の血管新生・骨吸収調節機構の解析と治療標的の探索 | 佐々木 朗 | 口腔外科(病態系) | 14,820 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 口腔癌顎骨破壊病変におけるSHHを標的とした新規治療法の開発と個別化医療への応用 | 志茂 剛 | 口腔外科(病態系) | 15,860 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| Angiogeninの分泌阻害剤terrein配糖体の新規口腔癌治療薬への応用 | 岸本 晃治 | 口腔外科(病態系) | 4,940 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| CCR4分子標的治療薬の頭頸部癌での抗腫瘍効果 | 銅前 昇平 | 口腔外科(病態系) | 4,810 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| ニコチンのEGFR発現促進作用が口腔癌のリンパ節転移に果たす役割 | 伊原木 聡一郎 | 口腔外科(病態系) | 4,810 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 経口投与用リポソーム薬物キャリアのステルス機能向上のための研究 | 宮脇 卓也 | 歯科麻酔科 | 2,340 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 健忘作用獲得のための新しい精神鎮静法の確立 | 宮脇 卓也 | 歯科麻酔科 | 100 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| レミフェンタニルの抗炎症作用について | 前田 茂 | 歯科麻酔科 | 1,960 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 未知のタンパク質TMEM135がシナプス小胞の機能制御に果たす役割の検討 | 樋口 仁 | 歯科麻酔科 | 1,800 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 常用薬が静脈麻酔薬プロポフォール [®] の薬物動態および臨床効果に及ぼす影響 | 丸瀨 美菜子 | 歯科麻酔科 | 1,040 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| テクスメトミジンによる抗炎症作用機序の解明—アラキドン酸代謝経路の解析から— | 本田 優花 | 歯科麻酔科 | 1,950 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 外科用吸収糸を用いた新型の胸腔鏡下手術用ガイディングマーカの開発 | 郷原 英夫 | 放射線部 | 1,560 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 脳表のNADH自家蛍光を用いた脳虚血監視モニターの開発 | 武田 吉正 | 集中治療部 | 3,380 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| MEKを標的とする化学修飾フラボノイドによる神経障害性痛治療薬の開発 | 松岡 義和 | 集中治療部 | 1,430 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 小児心臓手術患者における心臓バイオマーカーと患者予後の関係の検討 | 金澤 伴幸 | 集中治療部 | 1,040 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 先天性心疾患の長期予後の視点に基づいた介入のあり方に関する研究 | 赤木 禎治 | 循環器疾患集中治療部 | 2,000 | 補 委 補 | 日本医療研究開発機構委託研究開発費 |
| 根尖性歯周炎等の口腔内感染巣に由来する「歯性好中球減少性発熱」の概念の確立 | 曾我 賢彦 | 医療支援歯科治療部 | 1,800 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 人工筋肉を用いた痙性指拘縮に対する受動可動域訓練装置の実用化に関する研究 | 千田 益生 | 総合リハビリテーション部 | 1,100 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 松果体メラトニンによる副腎ホルモン合成・分泌への影響とその分子機序の解明 | 稲垣 兼一 | 内分泌センター | 1,430 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| オリジナル抗原HSP105由来ペプチドワクチンのFIIH医師主導治験 | 信岡 大輔 | 臓器移植医療センター | 1,000 | 補 委 補 | 日本医療研究開発機構委託研究開発費 |
| ナノメディシンを用いた温熱・免疫療法による腹膜播種の新規治療戦略 | 岸本 浩行 | 低侵襲治療センター | 4,030 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |

| | | | | | |
|--|--------|-------------|--------|-------------|-----------------------|
| 消化器癌腹膜転移機構解明に向けての腹腔内遊離癌細胞解析技術の開発 | 香川 俊輔 | 低侵襲治療センター | 2,080 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| グリオーマのBevacizumab治療における血管新生因子CYR61の発現影響 | 杉生 憲志 | I V Rセンター | 1,200 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 脳神経血管内治療における患者体表面および術者水晶体の被ばく線量実測調査 | 杉生 憲志 | I V Rセンター | 1,000 | 補 委 補 | 特定非営利活動法人日本脳神経血管内治療学会 |
| 治験の実施に関する研究 [ONYX] | 杉生 憲志 | I V Rセンター | 1,000 | 補 委 補 | 公益社団法人日本医師会臨床研究・治験推進事 |
| 同性間生殖臓器移植における細胞導入の解析 | 難波 祐三郎 | ジェンダーセンター | 910 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 難治性・再発性尿路感染症に対する乳酸菌プロバイオティクスに関する研究 | 石井 亜矢乃 | 総合患者支援センター | 500 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| EGFR肺癌におけるIL-6のEGFR-TKI耐性への関与と克服に向けた研究 | 堀田 勝幸 | 新医療開発研究センター | 800 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| KRAS/BRAF変異大腸癌に対するマイクロRNAを利用した新規治療法の開発 | 田澤 大 | 新医療研究開発センター | 2,340 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 腎組織幹細胞の誘導・分離に基づく腎再生研究基盤の確立 | 渡部 昌実 | 新医療研究開発センター | 800 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 前立腺癌における悪性形質およびアンドロゲン不応性の一元的制御機構の解明 | 渡部 昌実 | 新医療研究開発センター | 3,000 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 小児心不全に対する心筋再生医療法の企業主導他施設共同臨床治験 | 王 英正 | 新医療研究開発センター | 9,900 | 補 委 補 | 日本医療研究開発機構補助金 |
| メカノメディスン：メカノ医工学を駆使した再生医療・生殖医療への展開 | 王 英正 | 新医療研究開発センター | 2,250 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 小児心不全に対するヒト幹細胞移植による先進医療の実用化加速に向けた第2相臨床研究 | 王 英正 | 新医療研究開発センター | 40,000 | 補 委 補 | 日本医療研究開発機構委託研究開発費 |
| 次世代シーケンサーによるインプラント周囲細菌叢の網羅的解析と個別化抗菌療法開発 | 大野 彩 | 新医療研究開発センター | 900 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |
| 治療抵抗性消化器癌に対する癌関連線維芽細胞を標的とした新規治療法の開発 | 野間 和広 | 卒後臨床研修センター | 1,560 | 補 委 補 | 文部科学省科学研究費補助金 |

注1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。

3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印をつけた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2. 論文発表等の実績

(1)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

| 番号 | 発表者氏名 | 発表者の所属 | 題名 | 雑誌名 |
|----|------------|--------------------------------|--|-----------------------------------|
| 1 | Iwamuro M | Department of General Medicine | A multicenter survey of enteroscopy for the diagnosis of intestinal follicular lymphoma | Oncology Letters,10:131-136,2015 |
| 2 | Hagiya H | Department of General Medicine | A Nephrostomy-associated urinary tract Infection caused by elizabethkingia meningoseptica | Intern Med,54:3233-3236,2015 |
| 3 | Terasaka T | Department of General Medicine | A paraganglioma in a hypertensive patient with unilateral renal hypoplasia | Acta Med Okayama,69:119-122,2015 |
| 4 | Iwamuro M | Department of General Medicine | A Rare Cause of Esophageal Ulcer | Acta Med Okayama,68:171-175,2015 |
| 5 | Hagiya H | Department of General Medicine | Actinomyces turicensis bacteremia secondary to pyometra | Intern Med,54:2775-2777,2015 |
| 6 | Hagiya H | Department of General Medicine | Clinical ineffectiveness of latamoxef for Stenotrophomonas maltophilia infection | Infect Drug Resist,8:353-357,2015 |
| 7 | Waseda K | Department of General Medicine | Complication of chronic eosinophilic pneumonia in an elderly patient with Sjögren syndrome | Acta Med Okayama,69:123-127,2015 |
| 8 | Hagiya H | Department of General Medicine | Cytomegalovirus as an Insidious Pathogen Causing Duodenitis | Acta Med Okayama,69:319-323,2015 |
| 9 | Hagiya H | Department of General Medicine | Disseminated streptococcal endophthalmitis in two diabetic patients | Intern Med,54:1317-1318,2015 |
| 10 | Hagiya H | Department of General Medicine | Eagle's Syndrome Manifesting as Chronic Swallowing Pain | Intern Med,54:1321,2015 |
| 11 | Iwamuro M | Department of General Medicine | Ectopic pancreas in the stomach successfully resected by endoscopic submucosal dissection | Case Rep Med,1479272015 |
| 12 | Iwamuro M | Department of General Medicine | Gastric bezoar treatment by endoscopic fragmentation in combination with Pepsi-Cola® | Am J Case Rep,16:445-448,2015 |

| | | | | |
|----|-------------|--------------------------------|--|---|
| 13 | Iwamuro M | Department of General Medicine | Gastric pseudopolyposis formed after recovery from gastric gangrene | Dig Liver Dis.,47:e9,2015 |
| 14 | Iwamuro M | Department of General Medicine | Hyperintense lesion in the pons in intravascular lymphoma | Intern Med,54:2421-2422,2015 |
| 15 | Hagiya H | Department of General Medicine | Infective Internal Iliac Artery Aneurysm Caused by Campylobacter fetus | Intern Med,54:2021-2024, 2015 |
| 16 | Terasaka T | Department of General Medicine | Insulinoma discovered in diffusely calcified chronic pancreatitis | Intern Med,54:2785-2786,2015 |
| 17 | Hagiya H | Department of General Medicine | Klebsiella oxytoca producing IMP-1 detected as a first strain of carbapenem-resistant Enterobacteriaceae in our hospital | Intern Med,54:2939-2941,2015 |
| 18 | Hagiya H | Department of General Medicine | Lemierre syndrome involving external jugular vein | Acute Medicine & Surgery,2:64-68,2015 |
| 19 | Iwamuro M | Department of General Medicine | Magnified endoscopic features of duodenal follicular lymphoma and other whitish lesions | Acta Med Okayama,69:37-44,2015 |
| 20 | Iwamuro M | Department of General Medicine | Magnifying Endoscopic Observation of Duodenal Involvement of Follicular Lymphoma before and after Chemotherapy | Intern Med,54:1741-1745,2015 |
| 21 | Murakami K | Department of General Medicine | Antiobesity Action of ACAM by Modulating the Dynamics of Cell Adhesion and Actin Polymerization in Adipocytes. | Diabetes 2016 Mar;65(5):1255-67. |
| 22 | Gotoda T | Department of Gastroenterology | Propofol sedation with a target-controlled infusion pump and bispectral index monitoring system in elderly patients during a complex upper endoscopy procedure. | Gastrointest Endosc. 2016 Apr;83(4):756-64. |
| 23 | Kawano S | Department of Gastroenterology | An effective and safe sedation technique combining target-controlled infusion pump with propofol, intravenous pentazocine, and bispectral index monitoring for peroral double-balloon endoscopy. | Digestion. 2015;91(2):112-6. |
| 24 | Takashima S | Department of Gastroenterology | Evaluation of Mucosal Healing in Ulcerative Colitis by Fecal Calprotectin Vs. Fecal Immunochemical Test. | Am J Gastroenterol. 2015 Jun;110(6):873-80. |
| 25 | Akimoto Y | Department of Gastroenterology | N-glycan profiles in patients with intraductal papillary mucinous neoplasms of the pancreas. | Pancreatology 2015;15:432-438. |
| 26 | Miyahara K | Department of Gastroenterology | N-glycosylation of circulating glycoproteins in patients with unresectable pancreatic cancer treated with gemcitabine. | Pancreas 2015;44:551-556. |

| | | | | |
|----|---------------|---|--|---|
| 27 | Uchida D | Department of Gastroenterology | Synergistic anti-pancreatic cancer immunological effects by treatment with REIC/DKK3 protein and peripheral blood mononuclear cells. | J Gastroenterol Hepatol 2015 |
| 28 | Matsumoto K | Department of Gastroenterology | Effectiveness of peroral direct cholangioscopy using an ultraslim endoscope for the treatment of hepatolithiasis in patients with hepaticojejunostomy (with video). | Surg Endosc. 2016 Mar;30(3):1249-54 |
| 29 | Tsutsumi K | Department of Gastroenterology | ERCP using a short double-balloon enteroscope in patients with prior pancreatoduodenectomy: higher maneuverability supplied by the efferent- | Surg Endosc. 2015 Jul;29(7):1944-51 |
| 30 | Hiraoka S | Department of Gastroenterology | The earliest trough concentration predicts the dose of tacrolimus required for remission induction therapy in ulcerative colitis patients. | BMC Gastroenterol. 2015 Apr 29;15:53. |
| 31 | Kudo K | Department of Allergy and Respiratory Medicine | Impact of body surface area on survival in EGFR-mutant non-small cell lung cancer patients treated with gefitinib monotherapy: observational study of the Okayama Lung Cancer Study Group 0703. | Cancer Chemother Pharmacol. 2015 Aug;76(2):251-6. |
| 32 | Katayama A | Department of Nephrology, Diabetology and Endocrinology | Beneficial impact of Gpmb and its significance as a biomarker in nonalcoholic steatohepatitis. | Scientific reports. 2015 Nov 19;5:16920. |
| 33 | Sada KE | Department of Nephrology, Diabetology and Endocrinology | Different responses to treatment across classified diseases and severities in Japanese patients with microscopic polyangiitis and granulomatosis with polyangiitis: a nationwide prospective inception cohort study. | Arthritis research & therapy 2015 Apr;64(4):489-97. |
| 34 | Higuchi C | Department of Nephrology, Diabetology and Endocrinology | Identification of circulating miR-101, miR-375 and miR-802 as biomarkers for type 2 diabetes. | Metabolism: clinical and experimental. 2015 Apr;64(4):489-97. |
| 35 | Nakatsuka A | Department of Nephrology, Diabetology and Endocrinology | Insufficiency of phosphatidylethanolamine N-methyltransferase is risk for lean non-alcoholic steatohepatitis. | Scientific reports. 2016 Feb 17;6:21721. doi: 10.1038/srep21721 |
| 36 | Watanabe H | Department of Nephrology, Diabetology and Endocrinology | The efficacy of add-on tacrolimus for minor flare in patients with systemic lupus erythematosus: a retrospective study. | Lupus. 2016 Jan;25(1):54-60. |
| 37 | Wada J | Department of Nephrology, Diabetology and Endocrinology | Innate immunity in diabetes and diabetic nephropathy. | Nature Review Nephrol 2016 Jan;12(1):13-26. |
| 38 | Ujike-Omori H | Department of Nephrology, Diabetology and Endocrinology | The urinary levels of prostanoid metabolites predict acute kidney injury in heterogeneous adult Japanese ICU patients: a prospective observational study. | Clinical and experimental nephrology 2015 Dec;19(6):1024-36. |
| 39 | Saito Y | Department of Cardiovascular Medicine | Enhancement of Spontaneous Activity by HCN4 Overexpression in Mouse Embryonic Stem Cell-Derived Cardiomyocytes - A Possible Biological Pacemaker. | PLoS One 2015 Sep 18;10(9):e0138193. |

| | | | | |
|----|-------------|---|---|---|
| 40 | Takaya Y | Department of Cardiovascular Medicine | Fate of Mitral Regurgitation After Transcatheter Closure of Atrial Septal Defect in Adults | Am J Cardiol. 2015 Aug 1;116(3):458-62 |
| 41 | Kawahara Y | Department of Neurology | Simultaneous assessment of cognitive and affective functions in multiple system atrophy and cortical cerebellar atrophy in relation to computerized touch-panel screening tests. | J Neurol Sci. 2015 Apr 15;351(1-2):24-30 |
| 42 | Nakano Y | Department of Neurology | High Incidence of Dementia Conversion than Stroke Recurrence in Poststroke Patients of Late Elder Society. | J Stroke Cerebrovasc Dis. 2015 Jul;24(7):1621-8. |
| 43 | Hishikawa N | Department of Neurology | Cognitive and affective functions in Alzheimer's disease patients with metabolic syndrome. | Eur J Neurol. 2016 Feb;23(2):339-45 |
| 44 | Shirakawa Y | Department of Gastroenterological Surgery | Prone-position thoracoscopic ligation of the thoracic duct for chyle leak following radical neck dissection in a patient with a right aortic arch | Acta Medica Okayama,69(3):173-176, 2015 |
| 45 | Fujiwara T | Department of Gastroenterological Surgery | Multidisciplinary Cancer Therapy with Telomerase-Specific Oncolytic Adenovirus | Current Cancer Therapy Reviews, 11(3):178-187, 2015 |
| 46 | Kumon H | Department of Urology | Ad-REIC gene therapy: promising results in a patient with metastatic CRPC following chemotherapy | Clinical Medicine Insights. Oncology, 9: 31-38, 2015 |
| 47 | Fujio K | Department of Urology | A vaccine strategy with multiple prostatic acid phosphatase-fused cytokines for prostate cancer treatment | Oncol Rep, 33(4):1585-1592,2015 |
| 48 | Kumon H | Department of Urology | Feasibility of neoadjuvant Ad-REIC gene therapy in patients with high-risk localized prostate cancer undergoing radical prostatectomy. | Clin Transl Sci, 8(6):837-840, 2015 |
| 49 | Ishigami S | Department of Cardiovascular Surgery | Cardiac stem cell therapies for congenital heart diseases | Stem Cell and Translational Investigation2:e800, 2015 |
| 50 | Tarui S | Department of Cardiovascular Surgery | Transcoronary infusion of cardiac progenitor cells in hypoplastic left heart syndrome: Three-year follow-up of the Transcoronary Infusion of Cardiac Progenitor Cells in Patients With Single-Ventricle Physiology (TICAP) trial | J Thorac Cardiovasc Surg Elsevier, 150(5):1198-1208, 2015 |
| 51 | Tarui S | Department of Cardiovascular Surgery | Transcoronary infusion of cardiac progenitor cells in hypoplastic left heart syndrome: Three-year follow-up of the Transcoronary Infusion of Cardiac Progenitor Cells in Patients With Single-Ventricle Physiology (TICAP) trial. | Thorac Cardiovasc Surg. 2015 Nov;150(5):1198-1207, 1208.e1-2. |
| 52 | Tokuyama E | Department of Plastic Surgery | Mechanical Stretch on Human Skin Equivalents Increases the Epidermal Thickness and Develops the Basement Membrane | PLOS ONE 10(11), 2015 |
| 53 | Onoda S | Department of Plastic Surgery | Analysis of 10-Year Training Results of Medical Students Using the Microvascular Research Center Training Program | Journal of Reconstructive Microsurgery 32(5):336-41, 2015 |

| | | | | |
|----|------------|-----------------------------------|--|--|
| 54 | Onoda S | Department of Plastic Surgery | A Novel Lymphaticovenular Anastomosis Rat Model 76(3):332-5, 2015 | Annals of Plastic Surgery ;76(3):332-5, 2015 |
| 55 | Yamasaki O | Department of Dermatology | Hybrid neurofibroma/schwannoma in neurofibromatosis type I exhibiting high FDG uptake in PET imaging. | Eur J Dermatol, 2015 Apr;25:181-182 |
| 56 | Umemura H | Department of Dermatology | A male with group B streptococcal necrotizing fasciitis at multiple sites secondary to multifocal septic arthritis. | Acta dermatovenereologica, 2015 May;95:614-615 |
| 57 | Miyake T | Department of Dermatology | Annular pustular psoriasis with a heterozygous IL36RN mutation. | Eur J Dermatol, 2015 Jul-Aug;25:349-350 |
| 58 | Morizane Y | Department of Ophthalmology | Planned foveal detachment technique for the resolution of diffuse diabetic macular edema. | Jpn J Ophthalmol. 2015 Sep;59(5):279-87. |
| 59 | Naito T | Department of Ophthalmology | Relationship between consecutive deterioration of mean deviation value and progression of visual field defect in open-angle glaucoma. | Clin Ophthalmol. 2015 Nov 26;9:2217-22. |
| 60 | Naito T | Department of Ophthalmology | Relationship between progression of visual field defect and intraocular pressure in primary open-angle glaucoma. | Clin Ophthalmol. 2015 Jul 23;9:1373-8. |
| 61 | Kimura S | Department of Ophthalmology | Submacular hemorrhage in polypoidal choroidal vasculopathy treated by vitrectomy and subretinal tissue plasminogen activator. | Am J Ophthalmol. 2015 Apr;159(4):683-9. |
| 62 | Hosokawa M | Department of Ophthalmology | Six-month results of intravitreal aflibercept injections for patients with polypoidal choroidal vasculopathy. | Br J Ophthalmol. 2015 Aug;99(8):1087-91. |
| 63 | Shiode Y | Department of Ophthalmology | COMPARISON OF HALVING THE IRRADIATION TIME OR THE VERTEPORFIN DOSE IN PHOTODYNAMIC THERAPY FOR CHRONIC CENTRAL SEROUS CHORIORETINOPATHY. | Retina. 2015 Dec;35(12):2498-504. |
| 64 | Okano M | Department of Otorhinolaryngology | Regulatory effect of TLR3 signaling on staphylococcal enterotoxin-induced IL-5, IL-13, IL-17A and IFN- γ production in chronic rhinosinusitis with nasal polyps | Allergy International |
| 65 | Kariya S | Department of Otorhinolaryngology | Pulmonary function in never-smoker patients with chronic rhinosinusitis. | Int Forum Allergy Rhinol 2015 Nov;5(11):990-5 |
| 66 | Okano M | Department of Otorhinolaryngology | Staphylococcal protein A-formulated immune complexes suppress enterotoxin-induced cellular responses in nasal polyps. | Journal of Allergy and Clinical Immunology 2015 Aug;136(2):343-50.e8 |
| 67 | Okano M | Department of Otorhinolaryngology | Association and management of eosinophilic inflammation in upper and lower airways | Allergy International 2015 Apr;64(2):131-8 |

| | | | | |
|----|-------------|--|--|---|
| 68 | Toyoshima A | Department of Neurological Surgery | Intra-arterial transplantation of allogeneic mesenchymal stem cells mounts neuroprotective effects in a transient ischemic stroke model in rats: Analyses of therapeutic time window and its mechanisms | PLoS One. 2015 15;10(6):e0127302. |
| 69 | Ishida J | Department of Neurological Surgery, | Evaluation of extracellular matrix protein CCN1 as a prognostic factor for glioblastoma | Brain Tumor Pathology 32:245-252, 2015 |
| 70 | Hishikawa T | Department of Neurological Surgery, | Risk of rupture of unruptured cerebral aneurysms in elderly patients | Neurology 85, 1879-1885, 2015 |
| 71 | Sasaki T | Department of Neurological Surgery | Anti-high mobility group box 1 antibody exerts neuroprotection in a rat model of Parkinson's disease | Experimental Neurology 2016 Jan, 275:220-231 |
| 72 | Ichikawa T | Department of Neurological Surgery, | Hybrid microscopic-endoscopic surgery for craniopharyngioma in neurosurgical suite: Technical notes | World Neurosurg 85: 340-348,2016 Jan |
| 73 | Shibata M | Department of Anesthesiology and Resuscitology | Intraoperative Oxygen Consumption During Liver Transplantation. | Transplant Proc.2015 47(10): 2902-2906. |
| 74 | Sugimoto K | Department of Anesthesiology and Resuscitology | Urinary Albumin Levels Predict Development of Acute Kidney Injury After Pediatric Cardiac Surgery: A Prospective Observational Study. | J Cardiothorac Vasc Anesth. 2016 Jan, 30(1):64-68 |
| 75 | Nosaka N | Department of Pediatrics | Acute respiratory distress syndrome in a child with severe epileptic disorder membrane oxygenation: a case report. treated successfully by extracorporeal | BMC Pediatr. 2015 Apr 1;15:29. |
| 76 | Nosaka N | Department of Pediatrics | Anti-high mobility group box-1 monoclonal antibody treatment provides protection against influenza A virus (H1N1)-induced pneumonia in mice. | Crit Care. 2015 Jun 11;19:249. |
| 77 | Nosaka N | Department of Pediatrics | Characteristics and Costs of Ladder Fall Injuries: A Report from a Single Emergency Center in Okayama. | Acta Med Okayama. 2015 Oct;69(5):275-8. |
| 78 | Saito Y | Department of Pediatrics | Inhibitory Effects of Edaravone, a Free Radical Scavenger, on Cytokine-induced Hyperpermeability of Human Pulmonary Microvascular Endothelial Cells:A Comparison with Dexamethasone and Nitric Oxide Synthase Inhibitor. | Acta Med Okayama. 2015 Oct;69(5):279-90. |
| 79 | Higuchi Y | Department of Pediatrics | HDR syndrome in a Japanese girl with biliary atresia: a case report. | BMC Pediatr. 2016 Jan 22;16:14. |
| 80 | Fujii C | Department of Pediatrics | Analysis of the synthetic house-tree-person drawing test for developmental disorder. | Pediatr Int. 2016 Jan;58(1):8-13. |
| 81 | Muraoka M | Department of Pediatrics | Persistent clonal chromosomal abnormalities in achronic myeloid leukemia patient | Pediatr Int. 2016 Jan;58(1):53-6. |

| | | | | |
|----|-------------|-------------------------------|--|---|
| 82 | Hanada T | Department of Pediatrics | A Long-term Survivor after Congenital Acute Myeloid Leukemia with t(8 ; 16)(p11 ; p13). | Acta Med Okayama. 2016 Feb;70(1):31-5. |
| 83 | Yoshinaga H | Department of Child Neurology | Phenotypic variability in childhood of skeletal muscle sodium channelopathies | Pediatr Neurol 52: 504-508, 2015 |
| 84 | Kobayashi K | Department of Child Neurology | Action potentials contribute to epileptic high-frequency oscillations recorded with electrodes remote from neurons | Clin Neurophysiol 126: 873-881, 2015 |
| 85 | Kobayashi K | Department of Child Neurology | Trend figures assist with untrained emergency electroencephalogram interpretation | Brain Dev 37: 487-494, 2015 |
| 86 | Akiyama T | Department of Child Neurology | Spatial relationship between fast and slow components of ictal activities and interictal epileptiform discharges in epileptic spasms | Clin Neurophysiol 126: 1684-1691, 2015 |
| 87 | Akiyama T | Department of Child Neurology | Total folate and 5-methyltetrahydrofolate in the cerebrospinal fluid of children: correlation and reference values | Clin Chem Lab Med 53: 2009-2014, 2015 |
| 88 | Matsui Y | Department of Radiology | Radiation Exposure of Interventional Radiologists During Computed Tomography Fluoroscopy-Guided Renal Cryoablation and Lung Radiofrequency Ablation: Direct Measurement in a Clinical Setting. | Cardiovasc intervent radiol 2016 Jun;39(6):894-901. |
| 89 | Hiraki T | Department of Radiology | Transcatheter arterial embolization of hypervascular tumors with HepaSphere; prospective multicenter open label clinical trial of microspheres in Japan. | Jpn J Radiol 2015 Aug;33(8):479-486 |
| 90 | Iguchi T | Department of Radiology | Tension Pneumopericardium as a Complication of Preoperative Localization of a Small Pulmonary Metastasis Using a Short Hook Wire and Suture System. | Cardiovasc Intervent Radiol 2015 Oct;38(5):1346-1348 |
| 91 | Tada A | Department of Radiology | The difference in congenital cholesteatoma CT findings based on the type of mass. | Diagnostic and interventonal imaging 2016 Jan;97(1):65-69 |
| 92 | Iguchi T | Department of Radiology | CT fluoroscopy-guided preoperative short hook wire placement for small pulmonary lesions: evaluation of safety and identification of risk factors for pneumothorax. | Eur Radiol 2016 Jan;26(1):114-121 |
| 93 | Iguchi T | Department of Radiology | Transosseous Route for CT Fluoroscopy-Guided Radiofrequency Ablation of Lung Tumors. | J Vasc Interv Radiol 2015 Nov26(11) :1694-1698 |
| 94 | Tada A | Department of Radiology | Ectopic thyroid tissue in the adrenal gland: CT and MRI findings. | Diagn Interv Imaging. 2016 Mar;97(3):373-375 |
| 95 | Tada A | Department of Radiology | Image Quality of Coronary Computed Tomography Angiography with 320-Row Area Detector Computed Tomography in Children with Congenital Heart Disease. | Pediatr Cardiol 2016 Mar37(3):497-503 |

| | | | | |
|-----|-------------|---|---|---|
| 96 | Yumoto T | Department of Emergency Medicine | Prevalence, risk factors, and short-term consequences of traumatic brain injury-associated hyponatremia. | Acta Med Okayama, 69(4):213-218, 2015 Published online: doi:10.1136/bcr-2015-211645 |
| 97 | Minami D | Department of palliative and Supportive Medicine | Endobronchial ultrasound-guided transbronchial biopsy with or without a guide sheath for diagnosis of lung cancer. | Respir Investig. 2015 May;53(3):93-7. |
| 98 | Minami D | Department of palliative and Supportive Medicine | Downregulation of TBXAS1 in an iron-induced malignant mesothelioma model. | Cancer Sci. 2015 Oct;106(10):1296-302. |
| 99 | Taguchi Y | Department of Periodontics and Endodontics | Involvement of an Skp-Like Protein, PGN_0300, in the Type IX Secretion System of <i>Porphyromonas gingivalis</i> . | Infect Immun, 84(1), 230-240, 2015 |
| 100 | Maeda A | Department of Fixed Prosthodontics | WNT1-induced Secreted Protein-1 (WISP1), a Novel Regulator of Bone Turnover and Wnt Signaling. | J Biol Chem. 2015 May 29;290(22):14004-18. |
| 101 | Minakuchi H | Department of Fixed Prosthodontics | Sleep bruxism frequency and platelet serotonin transporter activities in young adult subjects. | Sleep Breath. 2016 Mar;20(1):271-6. |
| 102 | Mino T | Department of Fixed Prosthodontics | In silico comparison of the reproducibility of full-arch implant provisional restorations to final restoration between a 3D Scan/CAD/CAM technique and the conventional method. | J Prosthodont Res. 2015 Apr;59(2):152-8. |
| 103 | Yoshioka Y | Department of Fixed Prosthodontics | CCN4/WISP-1 positively regulates chondrogenesis by controlling TGF- β 3 function. | Bone. 2016 Feb;83:162-70. |
| 104 | Maruo Y | Department of Occlusion and Removable prosthodontics | Flexural properties of polyethylene, glass and carbon fiber-reinforced resin composites for prosthetic frameworks. | Acta odontologica Scandinavica, 73:581-587,2015 |
| 105 | Nishigawa G | Department of Occlusion and Removable prosthodontics | Various Effects of Sandblasting of Dental Restorative Materials. | PLoS One, 2016 Jan 14; 11:e0147077 |
| 106 | Shimo T | Department of Oral and Maxillofacial Surgery and Biopathology | Expression and roles of CCN2 in dental epithelial cells | In Vivo,29(2):189-185,2015 |
| 107 | Shimo T | Department of Oral and Maxillofacial Surgery and Biopathology | A case of adenoid cystic carcinoma associated with IgG4-related disease | International Journal of Surgery Case Reports, 10:12-16, 2015 |
| 108 | Shimo T | Department of Oral and Maxillofacial Surgery and Biopathology | Installing an original sleeve for pain from a distraction device in a hemifacial microsomia patient | International Journal of Surgery Case Reports, 12:137-13, 2015 |
| 109 | Yoshioka N | Department of Oral and Maxillofacial Surgery and Biopathology | Familial adenoid cystic carcinoma of sublingual salivary glands | J Oral and Maxillofac Surg, Med, Pathol., 27(3):353-356, 2015 |
| 110 | Honda Y | Department of Dental Anesthesiology | The inhibitory effect of locally injected dexmedetomidine on carrageenan-induced nociception in rat. | Eur J Pharmacol, 764:215-9,2015. |

| | | | | |
|-----|-------------|---|---|--|
| 111 | Maeda S | Department of Dental Anesthesiology | Independent factors affecting recovery time after sedation in patients with intellectual disabilities. | Open Dent J,9:146-9, 2015. |
| 112 | Yamane A | Department of Dental Anesthesiology | Effect of dexmedetomidine injected into the oral mucosa in combination with lidocaine on local anesthetic potency in humans: a crossover double-blind study. | J Oral Maxillofac Surg,73:616-21,2015. |
| 113 | Ishihara Y | Department of Orthodontics | Interdisciplinary orthodontic treatment for a patient with generalized aggressive periodontitis: Assessment of IgG antibodies to identify type of periodontitis and correct timing of treatment | Am J Orthod Dentofacial Orthop,147, 766-480, 2015 |
| 114 | Hara T | Endocrine Center | Mutual effects of melatonin and activin on induction of aldosterone production by human adrenocortical cells. | The Journal of steroid biochemistry and molecular biology. 2015 Aug;152:8-15 |
| 115 | Oe H | Center of Ultrasonic Diagnostics | Comparison of effects of sitagliptin and voglibose on left ventricular diastolic dysfunction in patients with type 2 diabetes: results of the 3D trial | Cardiovasc Diabetol. 2015 Jun 19;14:83 |
| 116 | Kodera R | Center for Innovative Clinical Medicine | Renoprotective effects of incretin-based drugs: A novel pleiotropic effect of DPP-4 inhibitor. | J Diabetes Investig 2016 Jan;7(1):29-31 2016 Jan;7(1):29-31 |
| 117 | Iwamoto T | Center for Innovative Clinical Medicine | Relative Prognostic and Predictive Value of Gene Signature and Histologic Grade in Estrogen Receptor-Positive, HER2-Negative Breast Cancer | Clin Breast Cancer, doi: 10.1016/j.clbc.2015.10.004.2015 |
| 118 | Tazawa H | Center for Innovative Clinical Medicine | MicroRNA as a molecular target for gastrointestinal cancers | Transl Gastrointest Cancer,4(3):219-235, 2015 |
| 119 | Iwamoto T | Center for Innovative Clinical Medicine | Comprehensive prognostic report of the Japanese Breast Cancer Society registry in 2006 | Breast Cancer, DOI 10.1007/s12282-015-0646-3,2015 |
| 120 | Watanabe M. | Center for Innovative Clinical Medicine | A novel in situ permeation system and its utility in cancer tissue ablation | Int J Oncol,47(3):875-883,2015 |

計120件

(注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。

2 報告の対象とするのは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実態上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。

3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2)高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文

| 番号 | 発表者氏名 | 発表者の所属 | 題名 | 雑誌名 |
|----|-------|--------|----|-----|
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

- (注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発および評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

| | |
|--|------|
| ① 倫理審査委員会の設置状況 | 有・無 |
| ② 倫理審査委員会の手順書の整備状況 | 有・無 |
| ・ 手順書の主な内容 申請等の手順書, 実施計画書作成手順書, 同意説明文書作成手順書, 人体から採取された試料及び情報等の保管に関する手順書, 個人情報の安全管理に関する標準業務手順書 | |
| ③ 倫理審査委員会の開催状況 | 年12回 |

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

| | |
|--|------|
| ① 利益相反を審査し, 適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況 | 有・無 |
| ② 利益相反の管理に関する規定の整備状況 | 有・無 |
| ・ 規定の主な内容 利益相反マネジメントポリシー, 委員会構成, 相談受付 | |
| ③ 利益相反を審査し, 適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況 | 年12回 |

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

| | |
|---|------|
| ① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況 | 年10回 |
| ・ 研修の主な内容 「今日から使える医療統計」, 「グループワークショップ」, 「研究概論」, 「研究倫理」, 「研究デザイン」, 「生物統計」, 「臨床研究データ」, 「治験」, 「データの読み方と意思決定」, 「演習」, 「臨床研究に必要なヒト・モノ・カネ」, 「カルテをめぐるその前に」, 「統合指針の概要と旧指針との違いについて」, 「統合指針の概要と介入研究実施の注意点」, 「AMEDのミッションと展望」 | |

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

初期研修を修了した医師・歯科医師に対し、指導医による指導のもと、入院患者・外来患者の診療、臨床研究及び症例検討会・関連学会等での発表を通して、高度な知識と医療技術の習得・開発に努めさせている。併せて、各学会による認定医・専門医等の資格を取得させることを目的としている。

また、地域において開業、勤務している医師・歯科医師を研修登録医として受け入れ、指導教員の指導のもと、最新の医療知識・医療技術の習得、患者の診療及び症例検討会への参加等により、高度な先端医療技術の体得に努めさせている。

2 研修の実績

| | |
|--------|------|
| 研修医の人数 | 230人 |
|--------|------|

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

| 研修統括者氏名 | 診療科 | 役職等 | 臨床経験年数 | 特記事項 |
|---------|------------------------------|-------------------|--------|------|
| 大塚 文男 | 総合内科 | 科長 | 24年 | |
| 岡田 裕之 | 消化器内科 | 科長 | 32年 | |
| 谷本 光音 | 血液・腫瘍内科 | 科長 | 40年 | |
| 木浦 勝行 | 呼吸器・アレルギー内科 | 科長 | 33年 | |
| 和田 淳 | 腎臓・糖尿病・内分泌内科 リウマチ・膠原病内科 | 科長 | 24年 | |
| 伊藤 浩 | 循環器内科 | 科長 | 33年 | |
| 阿部 康二 | 神経内科 | 科長 | 37年 | |
| 藤原 俊義 | 消化管外科 | 科長 | 31年 | |
| 八木 孝仁 | 肝・胆・膵外科 | 科長 | 33年 | |
| 三好 新一郎 | 呼吸器外科 | 科長 | 37年 | |
| 土井原 博義 | 乳腺・内分泌外科 | 科長 | 34年 | |
| 那須 保友 | 泌尿器科 | 科長 | 35年 | |
| 佐野 俊二 | 心臓血管外科 | 科長 | 39年 | |
| 野田 卓男 | 小児外科 | 科長 | 32年 | |
| 尾崎 敏文 | 整形外科 | 科長 | 29年 | |
| 木股 敬裕 | 形成外科 | 科長 | 32年 | |
| 岩月 啓氏 | 皮膚科 | 科長 | 38年 | |
| 白神 史雄 | 眼科 | 科長 | 36年 | |
| 西崎 和則 | 耳鼻咽喉科 | 科長 | 37年 | |
| 山田 了士 | 精神科神経科 | 科長 | 33年 | |
| 伊達 勲 | 脳神経外科 | 科長 | 33年 | |
| 森松 博史 | 麻酔科蘇生科 集中治療部 周術期管理センター | 科長 部長 センター長 | 22年 | |
| 塚原 宏一 | 小児科 | 科長 | 30年 | |
| 小林 勝弘 | 小児神経科 | 科長 | 33年 | |

| | | | | |
|-------|----------------|-------|----|---|
| 塚原 宏一 | 小児血液・腫瘍科 | 科長 | 30 | 年 |
| 岩崎 達雄 | 小児麻酔科 | 科長 | 25 | 年 |
| 平松 祐司 | 産科婦人科 | 科長 | 39 | 年 |
| 金澤 右 | 放射線科 | 科長 | 35 | 年 |
| 佐藤 圭路 | 救急科 | 科長代行 | 27 | 年 |
| 柳井 広之 | 病理診断科 | 科長 | 20 | 年 |
| 千田 益生 | 総合リハビリテーション部 | 部長 | 33 | 年 |
| 鳥井 康弘 | 総合歯科 | 科長 | 34 | 年 |
| 吉山 昌宏 | むし歯科 | 科長 | 32 | 年 |
| 高柴 正悟 | 歯周科 | 科長 | 28 | 年 |
| 窪木 拓男 | クラウンブリッジ補綴科 | 科長 | 30 | 年 |
| 皆木 省吾 | 咬合・義歯補綴科 | 科長 | 38 | 年 |
| 飯田 征二 | 口腔外科（再建系） | 科長 | 30 | 年 |
| 佐々木 朗 | 口腔外科（病態系） | 科長 | 35 | 年 |
| 浅海 淳一 | 歯科放射線・口腔診断科 | 科長 | 32 | 年 |
| 宮脇 卓也 | 歯科麻酔科 | 科長 | 28 | 年 |
| 上岡 寛 | 矯正歯科 | 科長 | 27 | 年 |
| 森田 学 | 予防歯科 | 科長 | 30 | 年 |
| 仲野 道代 | 小児歯科 | 科長 | 23 | 年 |
| 曾我 賢彦 | 医療支援歯科治療部 | 副部長 | 17 | 年 |
| 江草 正彦 | スペシャルニーズ歯科センター | センター長 | 28 | 年 |

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）

院内において専門領域等に関する研修を実施しているほか、外部機関が主催する研修会等に参加させる体制を整えている。

② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）

各部署、チーム等において、多職種連携によるチーム医療を行う上で必要となる専門領域等に関する症例検討、勉強会等により研修を行っている。

③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況

- ・研修の主な内容
- ・研修の期間・実施回数
- ・研修の参加人数

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

| | |
|---------|--|
| 計画・現状の別 | 1. 計画 ②. 現状 |
| 管理責任者氏名 | 病院長 榎野 博史 |
| 管理担当者氏名 | 医療情報部長 郷原 英夫, 放射線部長 金澤 右, 医療安全管理部長・感染制御部長・医療機器安全管理室長 岩月 啓氏, 薬剤部長 千堂 年昭, 看護部長 前川 珠木, 総務課長 山口 太司, 医事課長 木村 勝弘, 各科診療科長・中央診療施設長 |

| | | 保管場所 | 管理方法 | |
|------------------|--------------------|--|---|-----|
| 診療に関する諸記録 | 規則第二十二條の三第二項に掲げる事項 | 病院日誌 | 電子カルテで運用しているため病歴資料についてはコンピュータによる集中管理を行なっている。紙媒体の紹介状・同意書などについてはスキャナー取込後、医事課(病歴管理係)で保管している。診療録の病院外への持ち出しは、禁止している。 | |
| | | 各科診療日誌 | | |
| | | 処方せん | | |
| | | 手術記録 | | |
| | | 看護記録 | | |
| | | 検査所見記録 | | |
| | | エックス線写真 | | |
| | | 紹介状 | | |
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | 三項に掲げる事項 | 規則第二十二條の三第一項に掲げる事項 | 総務課 | |
| | | 従業者数を明らかにする帳簿 | 総務課 | |
| | | 高度の医療の提供の実績 | 医事課 | |
| | | 高度の医療技術の開発及び評価の実績 | 総務課 | |
| | | 高度の医療の研修の実績 | 総務課 | |
| | | 閲覧実績 | 病院長室 | |
| | 掲げる事項 | 規則第一條の十一第一項に掲げる事項 | 紹介患者に対する医療提供の実績 | 医事課 |
| | | 入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿 | 医事課 薬剤部 | |
| | | 医療に係る安全管理のための指針の整備状況 | 医療安全管理部 | |
| | | 医療に係る安全管理のための委員会の開催状況 | 医療安全管理部 | |
| | | 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況 | 医療安全管理部 | |
| | | 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況 | 医療安全管理部 | |

| | | 保管場所 | 管理方法 |
|---|-----------------------------|---|---------------------|
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | 規則第一条の十一第二項第一号から第三号までに掲げる事項 | 院内感染対策のための指針の策定状況 | 感染制御部 |
| | | 院内感染対策のための委員会の開催状況 | 総務課 医事課 |
| | | 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況 | 感染制御部 |
| | | 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況 | 感染制御部 医事課 総務課 |
| | | 医薬品安全管理責任者の配置状況 | 総務課 |
| | | 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況 | 薬剤部 |
| | | 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況 | 薬剤部 |
| | | 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | 薬剤部 |
| | | 医療機器安全管理責任者の配置状況 | 総務課 |
| | | 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況 | 医療機器安全管理室 |
| 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況 | 医療機器安全管理室 | | |
| 医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | 医療機器安全管理室 医療安全管理部 | | |

| | | 保管場所 | 管理方法 |
|--|---|---|---|
| 病院の管理及び運営に関する諸記録 | 規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項 | 医療安全管理責任者の配置状況 | 総務課 |
| | | 専任の院内感染対策を行う者の配置状況 | 総務課 |
| | | 医薬品安全管理責任者の業務実施状況 | 薬剤部 |
| | | 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況 | 総務課 |
| | | 診療録等の管理に関する責任者の選任状況 | 総務課 |
| | | 医療安全管理部門の設置状況 | 医療安全管理部 |
| | | 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況 | 経過措置の適用により、医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画を提出済。 |
| | | 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況 | 経過措置の適用により、医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画を提出済。 |
| | | 監査委員会の設置状況 | 経過措置の適用により医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画書を提出済。 |
| | | 入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況 | 医療安全管理部 |
| | | 他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況 | 経過措置の適用により、医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画を提出済。 |
| | | 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況 | 医事課 医療安全管理部 |
| | | 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況 | 法人監査室 |
| 職員研修の実施状況 | 総務課 | | |
| 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況 | 経過措置の適用により、医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画を提出済。 | | |

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

| | | |
|--|-------------------------|-------|
| 計画・現状の別 | 1. 計画 | ②. 現状 |
| 閲覧責任者氏名 | 病院長 榎野 博史 | |
| 閲覧担当者氏名 | 病院長室長 近藤 一彦, 医事課長 木村 勝弘 | |
| 閲覧の求めに応じる場所 | 小会議室 | |
| 閲覧の手続の概要 | | |
| 閲覧の希望がある場合は、学内及び院内で定める情報公開に関する規定に基づき、以下のとおり手続きを行う。 | | |
| ① 開示請求の受付 | | |
| ② 開示等の検討 | | |
| ③ 開示等の決定・通知 | | |
| ④ 開示の実施 | | |

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

| | | |
|-----------|---------|-------|
| 前年度の総閲覧件数 | 延 | 0 件 |
| 閲覧者別 | 医 師 | 延 0 件 |
| | 歯 科 医 師 | 延 0 件 |
| | 国 | 延 1 件 |
| | 地方公共団体 | 延 2 件 |

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第6)

規則第1条の11第1項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

| | |
|--|-----|
| ① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況 | 有・無 |
| <ul style="list-style-type: none">指針の主な内容：<ul style="list-style-type: none">① 医療安全管理に関する基本的考え方② 医療安全管理のための委員会③ 医療安全管理のための職員研修に関する基本方針④ 医療安全管理部の業務、医療安全管理体制⑤ 医療事故等発生時の対応に関する基本方針⑥ 医療従事者と患者との間の情報の共有に関する基本方針⑦ 患者からの相談への対応に関する基本方針⑧ その他医療安全の推進のために必要な基本方針（エラーが起こりうることを前提とした安全対策の構築、事故防止への包括的アプローチの必要性） | |
| ② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況 | |
| <ul style="list-style-type: none">設置の有無（有・無）岡山大学病院医療事故防止委員会開催状況：年12回活動の主な内容：<ul style="list-style-type: none">審議事項として医療事故の防止及び対策，医療事故防止マニュアルの作成，医療事故防止の教育・研修及び警鐘事例周知，インシデントレポート件数報告 | |
| ③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況 | 年3回 |
| <ul style="list-style-type: none">研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">第1回 平成27年5月22日，25日 「心肺蘇生法」（参加延べ人数）2,603人第2回 平成27年7月27日，28日 「職業倫理・診療体制から読み解く 岡山大学病院の安全文化」 （参加延べ人数）2,612人第3回 平成28年2月8日 「化学プラント事故事例と事故防止」（参加延べ人数）2,514人 | |
| ④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況 | |
| <ul style="list-style-type: none">医療機関内における事故報告等の整備（有・無）その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">インシデントレポートは医療安全管理部において毎日検討を行った上で，医療安全管理部職員会議を1ヶ月に3回実施し検討している。インシデントレポートは1ヶ月毎に，全報告数，内容，患者影響度，要因等の項目別に集計し，リスクマネージャー会議で報告している。特に検討を要する事例については，個別に事例分析を行っている。分析方法は特定していないが，事例に応じ当事者，当事者以外，ソフトウェア，ハードウェア，管理，環境の面から検討している。 | |

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

| | |
|--|---------|
| ① 院内感染対策のための指針の策定状況 | 有・無 |
| <ul style="list-style-type: none">・ 指針の主な内容1) 院内感染対策に関する基本的な考え方2) 委員会について3) 感染制御部の業務内容4) 院内感染対策のための職員教育及び研修5) 感染症の発生状況の報告に関する基本方針6) 院内感染発症時の対応に関する基本方針7) 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針8) その他当院における院内感染対策の推進のために必要な基本方針9) 他施設との感染対策と地域連携に関する基本方針10) 一種感染症指定病院としての基本方針11) 一類感染症, 二類感染症, 新型インフルエンザ等感染症により入院する患者の権利等 | |
| ② 院内感染対策のための委員会の開催状況 | 年 4 8 回 |
| <ul style="list-style-type: none">・ 活動の主な内容:・ 感染予防対策委員会 1回/月 合計12回・ リスクマネージャー会議 (この中でICT全体会議と医療安全会議を行う) 1回/月 合計12回・ 感染制御部職員会議 1回/月 合計12回以上 3 委員会 は、それぞれ連携して以下の活動をする。① 耐性菌サーベイランス, 侵襲的処置別感染症サーベイランス② 感染予防対策立案と指導, マニュアルの管理③ 抗菌薬使用の管理④ ICT (リスクマネージャーがICTメンバーを兼ねる) との連携⑤ 重症感染症, 特殊感染症の診断及び治療に関するコンサルテーション⑥ 感染予防対策に関する教育及び研修の企画運営⑦ 針刺し, 体液汚染事故に関するサーベイランスと事故への対応及び予防対策の立案指導⑧ その他医療従事者の感染予防と発症時の指導 (結核, 流行性疾患など)⑨ 医療廃棄物の取り扱いの管理と指導, 環境整備に関する管理と指導⑩ その他の感染予防対策上の問題への関与・ 看護部感染対策委員会 1回/月 合計12回・ 手指衛生のコンプライアンスの測定と改善・ 感染防止の視点からの看護手順の作成・ 環境整備の状況把握と指導 | |
| ③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況 | 年 1 7 回 |
| <ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容:1) 全職員対象院内感染対策講習会 3回/年 (①は同じ内容で2回, ②③は1回, 計4回)① 針刺し事故防止, 輸血とHBV感染, スタッド・プリコジョン② 尿路留置カテーテルの取扱とカテーテル関連尿路感染症, 緊急提言 院内水痘発症の危険性について, カテーテル関連の感染予防③ 耐性菌の分離状況, 多剤耐性菌の現状とその解釈2) 新規採用者研修 1回3) 感染対策地域連携講演会「ウイルス疾患とワクチン」 1回4) 主に看護師対象感染防止技術研修会 11回〈内容〉感染予防対策に関する基本的な事項, Device関連の感染予防策, 流行性疾患対策など | |

④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況

- ・ 病院における発生状況の報告等の整備 (有 ・ 無)
- ・ その他の改善のための方策の主な内容： その年のスローガンを決め、強化をする。
平成27年度は、「ラウンドの強化！抗菌薬管理の強化」をスローガンとし、病棟ラウンドの強化を図った。

(様式第6)

規則第1条の11第2項第2号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

| | |
|---|-------|
| ① 医薬品安全管理責任者の配置状況 | 有・無 |
| ② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況 | 年 2 回 |
| 研修の主な内容： 平成28年4月 新規採用職員オリエンテーション -医療事故防止について(薬剤部) - 平成28年9月 抗菌薬の適正使用について 平成28年9月 医薬品の廃棄について | |
| ③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況 | |
| ・手順書の作成 (有・無) ・業務の主な内容： ・医薬品の採用・購入に関すること ・医薬品の管理に関すること(麻薬を含む。) ・患者の持参薬歴情報等の収集, 処方せんの記載に関すること ・患者に対する与薬や服薬指導に関すること ・医薬品の安全使用に係る情報の取扱いに関すること ・他施設(病院等, 薬局等)との連携に関すること ・病棟における医薬品管理に関すること ・実施状況については, 業務手順書に基づき, 各担当部署においてチェックリストを作成し, 定期的(月1回程度)に実施状況の確認を行った。 | |
| ④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | |
| ・医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無) ・その他の改善のための方策の主な内容： 毎月, 業務手順書に基づき, 薬品情報室にて収集した情報を, 情報誌(DI News)に掲載し, 各診療科, 中央診療施設, 看護部に配布し情報提供を行っている。また, 安全性情報はmailにて配信しており特に重要な情報は処方医宛に配信している。「医薬品の安全使用に関する情報の整備, 周知及び当該周知の状況の確認」としては, 院内発行のDIニュース, 緊急安全性情報(イエローレター), 安全性速報(ブルーレター)等が発行, 発出された場合, “医薬品情報に関する確認書”を用いて, 院内の周知状況を確認する体制を構築し, 運用している。未承認薬等の使用情報については, 治験診査委員会等の各委員会における情報や病棟薬剤師等が院内における適応外および禁忌薬の使用に関する情報を収集し, 薬剤部内で一元管理を行っている。情報の周知方法としては, DIニュース, リスクマネジャー会議等の資料を用いて院内全体へ周知している。 | |

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

| | |
|--|---------|
| ① 医療機器の安全使用のための責任者の配置状況 | 有・無 |
| ② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況 | 年 160 回 |
| <ul style="list-style-type: none">・ 研修の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 定期研修<ol style="list-style-type: none">1. 人工心肺装置：体外循環装置の安全に関わる講習会の受講 (学会主催のもの)2. 人工呼吸器：機器の取り扱いと注意事項について3. 血液浄化装置： 同 上4. 除細動装置： 同 上5. 閉鎖式保育器： 同 上6. 注入ポンプ： 同 上7. MRI 装置の安全性8. 診療用高エネルギー放射線発生装置の安全使用のための研修 (診療放射線技師対象対象)9. 診療用放射線照射装置の安全使用のための研修 (診療放射線技師対象対象)10. RALS 緊急時マニュアル (医師, 診療放射線技師, 看護師対象)・ 新しい医療機器導入時の研修<ol style="list-style-type: none">1. AED：機器の取り扱い説明 | |
| ③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況 | |
| <ul style="list-style-type: none">・ 計画の策定 (有・無)・ 保守点検の主な内容：<ol style="list-style-type: none">1. 人工心肺装置：定期点検 (年1回), 日常点検 (始業点検/終業点検)2. 人工呼吸器：定期点検 (年2回), 使用前点検3. 血液浄化装置：定期点検 (年2回), 使用前点検, 透析液水質確保加算に係るエンドトキシン測定, 細菌培養 (毎月)4. 除細動装置：定期点検 (年2回)5. 閉鎖式保育器：定期点検 (年2回)6. X 線 装 置：定期点検 (機種により年1~4回), 使用前点検7. 診療用放射線照射装置：定期点検 (年2回)8. 診療用高エネルギー放射線発生装置：定期点検 (年4回) | |
| ④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況 | |
| <ul style="list-style-type: none">・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)・ その他の改善のための方策の主な内容：<ul style="list-style-type: none">・ 公益財団法人 日本医療機能評価機構 医療安全情報からの情報収集・ 全国国立大学法人 放射線診療部門会議 医療安全委員会 NEWSLETTERからの情報収集・ ECMO迅速対応のための物品カートの作成と物品管理表 (滅菌期限) の作成・ 栄養ポンプ老朽化に伴う不具合事象への対応 | |

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

| | |
|--|-----------|
| ① 医療安全管理責任者の配置状況 | 有・無 |
| <p>・医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括者として、医療安全管理責任者を配置し、医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医療機器安全管理責任者及び医薬品安全管理者の各業務について確認を行っている。</p> | |
| ② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況 | 有 (3名) ・無 |
| <p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <p>医薬品情報管理室が院内における医薬品の使用状況や院内におけるインシデント情報、問い合わせ情報等を定期的に収集し、その情報を有効的に活用されるように整理し、速やかに情報提供を行っている。また、特に重篤な情報に関しては、当該医薬品の使用状況から処方医を選定し、情報提供を行っている。</p> <p>「医薬品に関する情報の周知の状況の確認」としては、薬剤部から情報提供する際、“医薬品情報に関する確認書”を添付し、それをういて院内の周知状況を確認する体制を構築し、運用している。</p> <p>・未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況</p> <p>未承認等の医薬品の使用状況の把握は、主に病棟薬剤師がその情報収集に努め、処方の必要性等を主治医へ確認し、未承認等の医薬品使用に対する安全対策を講じている。</p> <p>・担当者の指名の有無 (有) ・無</p> | |
| ④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況 | 有 ・無 |
| <p>・医療の担い手が説明を行う際の同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (有) ・無)</p> <p>・規程の主な内容：</p> <ul style="list-style-type: none">・インフォームド・コンセントに係る責任者は、副病院長 (診療担当) をもって充てる。・定期的にインフォームド・コンセントの実施状況を確認し、必要に応じて診療科長等会議において、報告及び指導等を行う。 | |

| | |
|---|-----|
| ⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況 | 有・無 |
| <p>・活動の主な内容：</p> <p>委員会を開催し、診療記録の監査を行っている。</p> | |
| ⑥ 医療安全管理部門の設置状況 | 有・無 |
| <p>・所属職員：専従（2）名、専任（2）名、兼任（17）名 うち医師：専従（ ）名、専任（2）名、兼任（6）名 うち薬剤師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（2）名 うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（1）名</p> <p>・活動の主な内容：</p> <p>病院全体の医療安全対策に関する計画立案や評価・改善・医療安全に関する職員の意識向上や指導などの活動を行う。1. インシデントレポートの集計、分析及びフィードバック並びに再発防止策の立案及び提出などのインシデントの再発防止に関すること。2. 医療安全管理に関するマニュアルの作成及びガイドラインの策定に関すること。3. 職場の安全点検活動及びモニタリングに関すること。4. インシデント発生後の対応及び調整などに関すること。（患者・家族への対応も含む。）5. 医療安全に関する教育、啓発及び広報などに関すること。6. 全国医療安全管理協議会に関連した情報交換業務及び全国的調査に関すること。7. 薬剤・医療機器メーカー及び行政への提言に関すること。8. 全死亡症例の把握9. その他・各種委員会、ワーキングメンバーとしての活動</p> <p>※ 平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。</p> <p>* 経過措置の適用により、医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画を提出済。</p> | |
| ⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況 | |
| <p>・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）</p> <p>・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）</p> <p>・規程の主な内容：</p> <p>・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）</p> <p>・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）</p> <p>* 経過措置の適用により、医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画を提出済。</p> | |

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

- ・未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・規程の主な内容：
- ・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）

* 経過措置の適用により、医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画を提出済。

⑨ 監査委員会の設置状況

有・無

- ・監査委員会の開催状況：年 回
- ・活動の主な内容：
- ・監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無）
- ・委員名簿の公表の有無（有・無）
- ・委員の選定理由の公表の有無（有・無）
- ・公表の方法：

* 経過措置の適用により、医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画を提出済。

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

| 氏名 | 所属 | 委員長 (○を付す) | 選定理由 | 利害関係 | | 委員の要件 該当状況 |
|----|----|---------------|------|------|--|---------------|
| | | | | 有・無 | | |
| | | | | 有・無 | | |
| | | | | 有・無 | | |
| | | | | 有・無 | | |
| | | | | 有・無 | | |
| | | | | 有・無 | | |

（注） 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

| |
|--|
| ⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 174 件 (H27. 10~H28. 8) ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 29 件 (H27 年度) ・医療安全管理委員会の活動の主な内容 医療事故の防止及び対策, 医療事故防止マニュアルの作成, 医療事故防止の教育・研修, 及び警鐘事例周知, インシデントレポート件数の把握, 3 b 以上の把握等 |
| ⑪ 他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・他の特定機能病院への立入り (有 (病院名：)) ・<input checked="" type="radio"/>無 ・他の特定機能病院からの立入り受入れ (有 (病院名：)) ・<input checked="" type="radio"/>無 ・技術的助言の実施状況 * 経過措置の適用により、医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画を提出済。 |
| ⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・体制の確保状況 総合患者支援センターが窓口となっており、医療事故等に関する場合は、医療安全管理部に連絡が入り、対応を行っている。 |
| ⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無 (<input checked="" type="radio"/>有 ・無) ・窓口を提供する情報の範囲, 情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無 (<input checked="" type="radio"/>有 ・無) ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無 (<input checked="" type="radio"/>有 ・無) |
| ⑭ 職員研修の実施状況 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・研修の実施状況 医療安全に関する職員全体研修は年 3 回実施し、アンケートにより理解度を確認している。 H27 年度は新規医療技術の導入, 医療安全管理体制, インシデントレポートシステム, 医薬品の安全管理, IC などについても研修を実施した。 |

⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況

・研修の実施状況

* 経過措置の適用により、医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画を提出済。

(様式第7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

| | |
|--|--------------------------------------|
| ① 病院の機能に関する第三者による評価の有無 | <input checked="" type="radio"/> 有・無 |
| ・評価を行った機関名、評価を受けた時期 日本医療機能評価機構による病院機能評価：平成27年1月受審 平成27年4月認定 | |

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

| | |
|--|--------------------------------------|
| ① 果たしている役割に関する情報発信の有無 | <input checked="" type="radio"/> 有・無 |
| ・情報発信の方法、内容等の概要 ・ホームページ及び定例記者発表等を通じての情報発信 ・市民等を対象とした公開講座等の開催 | |

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

| | |
|--|--------------------------------------|
| ① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無 | <input checked="" type="radio"/> 有・無 |
| ・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 ・複数の診療科で構成する中央診療施設の設置 ・診療科等の連携によるセンターの設置 | |

(様式第 8)

岡大病院総第 95 号
平成 28 年 9 月 7 日

厚生労働大臣 殿

岡山大学病院長
榎野博史

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 医療安全管理責任者を配置するための予定措置

(配置済)

2. 医薬品安全管理責任者の活動を充実するための予定措置

医薬品の安全性を向上させるため医療安全管理部に専従薬剤師配置を検討中であり、平成 30 年 3 月までに配置する予定である。それまでの期間は薬剤部の職員（薬剤師）のうちから医療安全管理部担当者を定め、医薬品安全管理に関する業務に従事し、医薬品安全管理責任者と連携を図る。

「医薬品の安全使用に関する情報の整備、周知及び当該周知の状況の確認」としては、院内発行の DI ニュース、緊急安全性情報（イエローレター）、安全性速報（ブルーレター）等が発行、発出された場合、“医薬品情報に関する確認書”を用いて、院内の周知状況を確認する体制を構築し、現在運用中である。

未承認等の使用状況については、病棟薬剤師等が病棟薬剤業務および調剤監査を通じてその情報を収集し、必要に応じて処方必要性等の確認、リスク検討を行い、処方提案を実施する。また、未承認等の使用情報を整理し、必要に応じて DI ニュースまたはリスクマネジャー会議を通じて院内へ情報発信する。

医薬品情報の周知およびその確認、または未承認等の使用状況については副薬剤部長を担当者に定め適切な実施を図ることとした。

3. 医療を受ける者に対する説明に関する責任者を配置するための予定措置

副病院長（診療担当）を責任者と定めた。（平成28年8月23日）

4. 説明の実施に必要な方法に関する規程を作成するための予定措置

「岡山大学病院におけるインフォームド・コンセントに関する内規」を制定した。
（平成28年8月23日）

5. 診療録等の管理に関する責任者を配置するための予定措置

医療情報部長を責任者と定めた。（平成28年7月26日）

6. 規則第9条の23第1項第10号に規定する医療に係る安全管理に資する措置を実施するための予定措置

（対応済）

7. 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口を設置するための予定措置

医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口としては、本学の公益通報窓口で対応する。このことについて、平成28年9月末までに、病院HPに掲載及び病院職員宛に周知徹底を図る予定である。

8. 医療安全管理部門による医療に係る安全の確保に資する診療の状況の把握及び従業者の医療の安全に関する意識の向上の状況の確認実施のための予定措置

手術時の血栓予防等についてのモニタリングを行い、医療事故防止委員会に報告を行う体制及び職員研修後の効果測定（e-learning 導入を検討中）においても意識向上の確認を行う体制を平成29年3月末までに整える予定である。なお、現在実施している警鐘事例（事故防止策）はリスクマネージャー会議、医療事故防止委員会、病院連絡協議会、GRMレターにより周知を行い、院内ラウンド時に現場の周知状況を確認する作業は引き続き継続する。

9. 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門を設置するための予定措置

関係各署とミーティングを行い、高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置を検討しているところである。今後、詳細について検討を重ね、病院諸会議等の審議を経て、平成29年3月末までに設置予定である。

10. 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業員が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成するための予定措置

関係各署とミーティングを行い、高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門について、設置案を検討しているところである。部門の設置案の検討と併せて、高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業員が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程についても検討を進め、病院諸会議等の審議を経て、平成29年3月末までに制定予定である。

11. 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門を設置するための
予定措置

関係各署とミーティングを行い、未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置を検討しているところである。今後、病院諸会議等の審議を経て、平成29年3月末までに設置予定である。

12. 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成するための予定措置

関係各署とミーティングを行い、未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門について、設置案を検討しているところである。部門の設置案の検討と併せて、未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程についても検討を進め、病院諸会議等の審議を経て、平成29年3月末までに制定予定である。

13. 監査委員会を設置するための予定措置

開設者が設置する監査委員会について、委員の選考及び規程制定について検討を行っており、平成29年3月末までに設置予定である。なお、委員会については、年2回開催予定である。

14. 他の特定機能病院の管理者との連携による立ち入り及び技術的助言を遂行するための予定措置

厚生労働省から示される立ち入り，受け入れの方法や内容に基づき，他の特定機能病院と連携を図りながら，来年度から行う予定である。

15. 職員研修を実施するための予定措置

年3回の職員研修を継続して行い，来年度以降は，診療ルール，インシデント・アクシデント報告を必須項目として内容に含め，研修後は効果測定（ペーパー若しくはeラーニング）を実施する予定である。

16. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

国立大学附属病院長会議が実施する研修（今後検討予定）に来年度から参加する予定である。

17. 医療安全管理部門の人員体制

・所属職員：専従（2）名、専任（2）名、兼任（17）名
うち医師：専従（ ）名、専任（2）名、兼任（6）名
うち薬剤師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（2）名
うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（1）名
うち歯科医師：兼任（3）名、技術職員：兼任（3）名、事務職員：兼任（2）名

18. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

平成30年4月から

- ・所属職員：専従（3）名、専任（2）名、兼任（17）名
 - うち医師：専従（ ）名、専任（2）名、兼任（6）名
 - うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（2）名
 - うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（1）名
 - うち歯科医師：兼任（3）名、技術職員：兼任（3）名、事務職員：兼任（2）名

平成32年4月から

- ・所属職員：専従（4）名、専任（ ）名、兼任（17）名
 - うち医師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（6）名
 - うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（2）名
 - うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（1）名
 - うち歯科医師：兼任（3）名、技術職員：兼任（3）名、事務職員：兼任（2）名